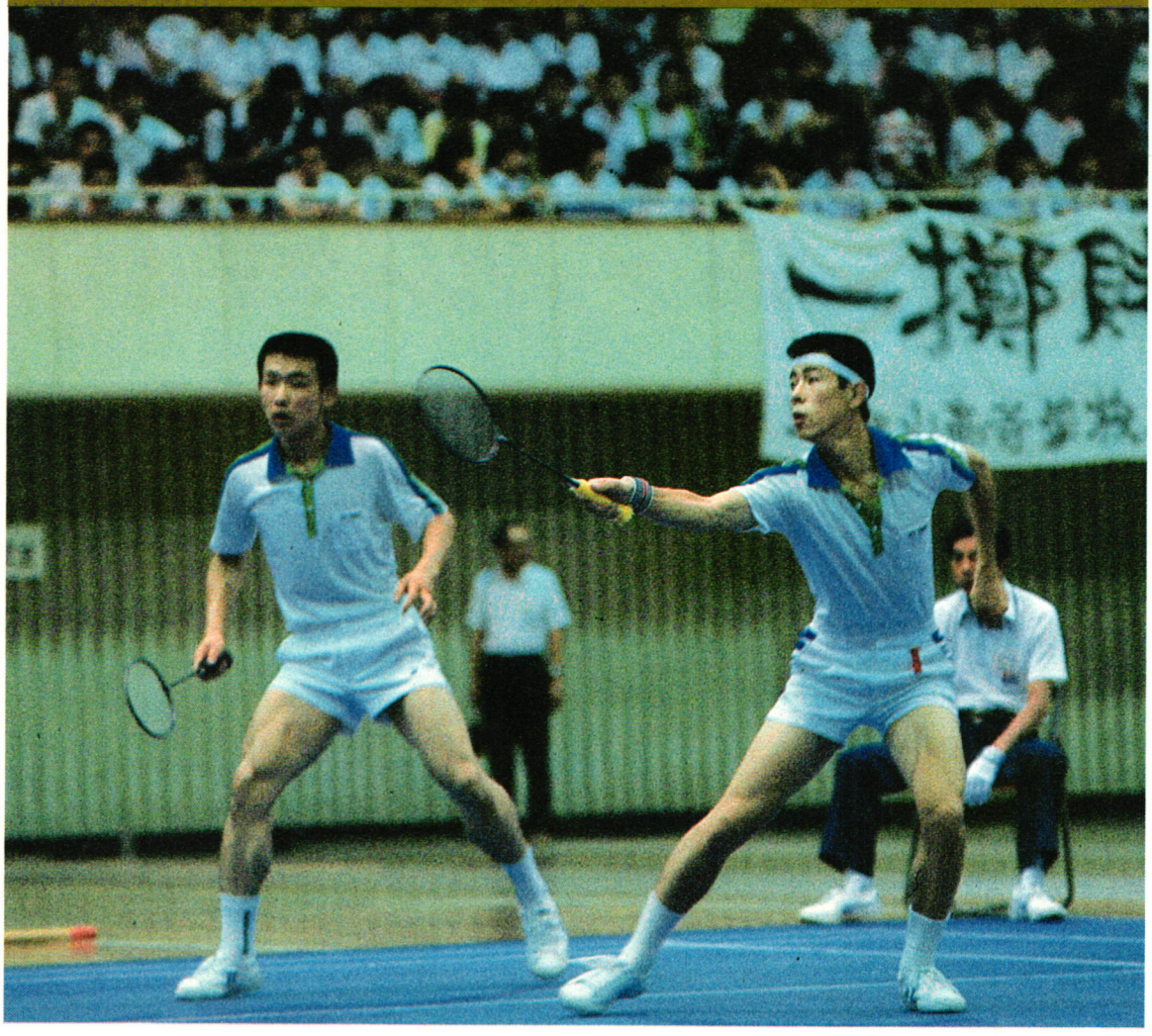
昭和56年8月15日発行（毎月1回15日発行・通巻第142号）　昭和55年10月9日第三種郵便物認可

バドミントン

8

The Badminton World No. 142 1981



The Badminton Association of England presents the

ALL ENGLAND CHAMPIONSHIPS

Wembley Arena 25th—29th MARCH 1981



●女子ダブルス優勝

Nora Perry
ノラ・ペリー（イングランド）

Jane Webster
ジェーン・ウェブスター（イングランド）



●男子ダブルス優勝

Kartono
カルトノ（インドネシア）

Heryanto
ハリヤント（インドネシア）



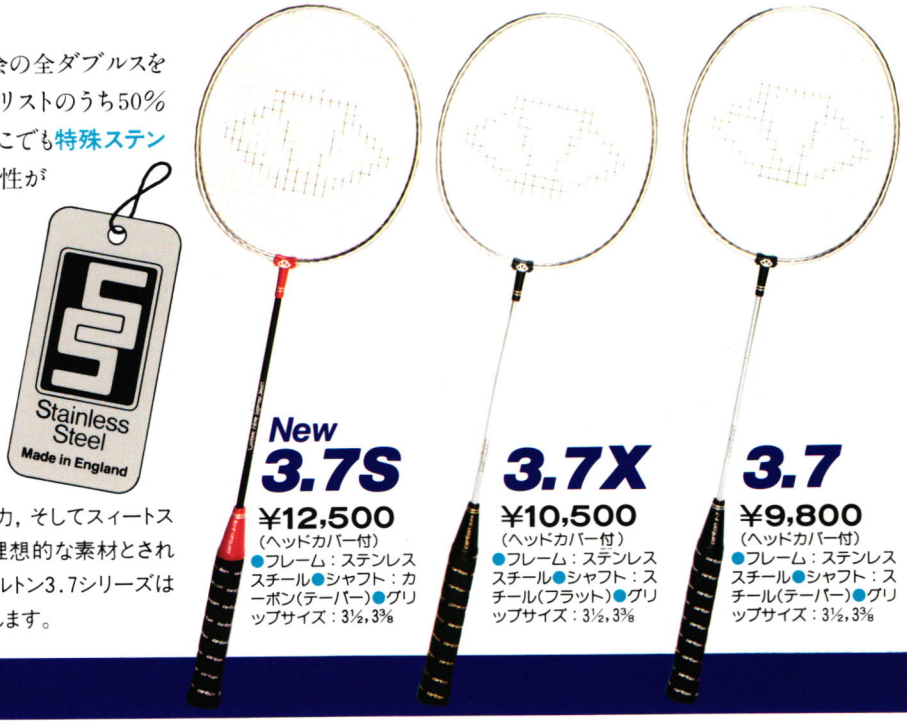
●混合ダブルス優勝

Nora Perry
ノラ・ペリー（イングランド）

Mike Tredgett
マイク・トレジェット（イングランド）

カールトン,全ダブルスを制覇!!

カールトンは'81全英選手権大会の全ダブルスを独占しました。しかも，ファイナリストのうち50%がカールトン・ラケットを使用，ここでも**特殊ステンレス・スチール・フレーム**の優秀性が見事に実証されました。



STAINLESS STEEL
ステンレス・スチール

カールトン3.7シリーズのフレームは，特殊ステンレス・スチールで作られています。独自に開発されたこのステンレス・スチールは，反撥力，耐久力，そしてスィートスポットの広さと全ての長所を備え，理想的な素材とされています。このタッグのついたカールトン3.7シリーズはあなたに最高のプレーを保証いたします。

Stainless Steel
Made in England

New 3.7S
¥12,500
（ヘッドカバー付）
●フレーム：ステンレススチール●シャフト：カーボン(テーパー)●グリップサイズ：3½,3⅜

3.7X
¥10,500
（ヘッドカバー付）
●フレーム：ステンレススチール●シャフト：スチール(フラット)●グリップサイズ：3½,3⅜

3.7
¥9,800
（ヘッドカバー付）
●フレーム：ステンレススチール●シャフト：スチール(テーパー)●グリップサイズ：3½,3⅜

carlton
That's the name of the game

総輸入元　メトロレジャー株式会社　〒101 東京都千代田区外神田5-6-4 TEL.(03)833-3661(代)

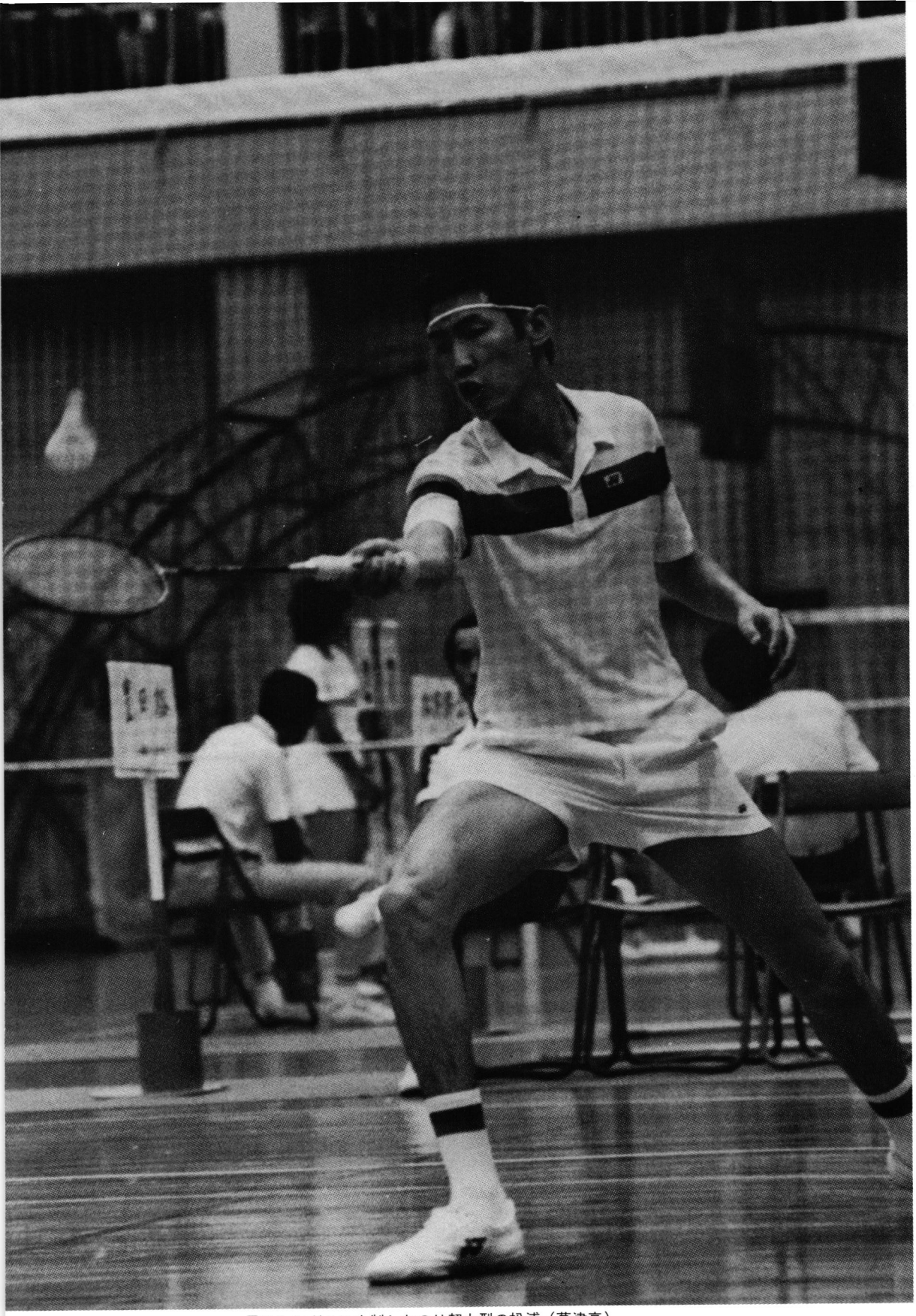
第32回インターハイ



4度目の出場で初優勝の日川高

2年連続完全優勝の熊本中央女



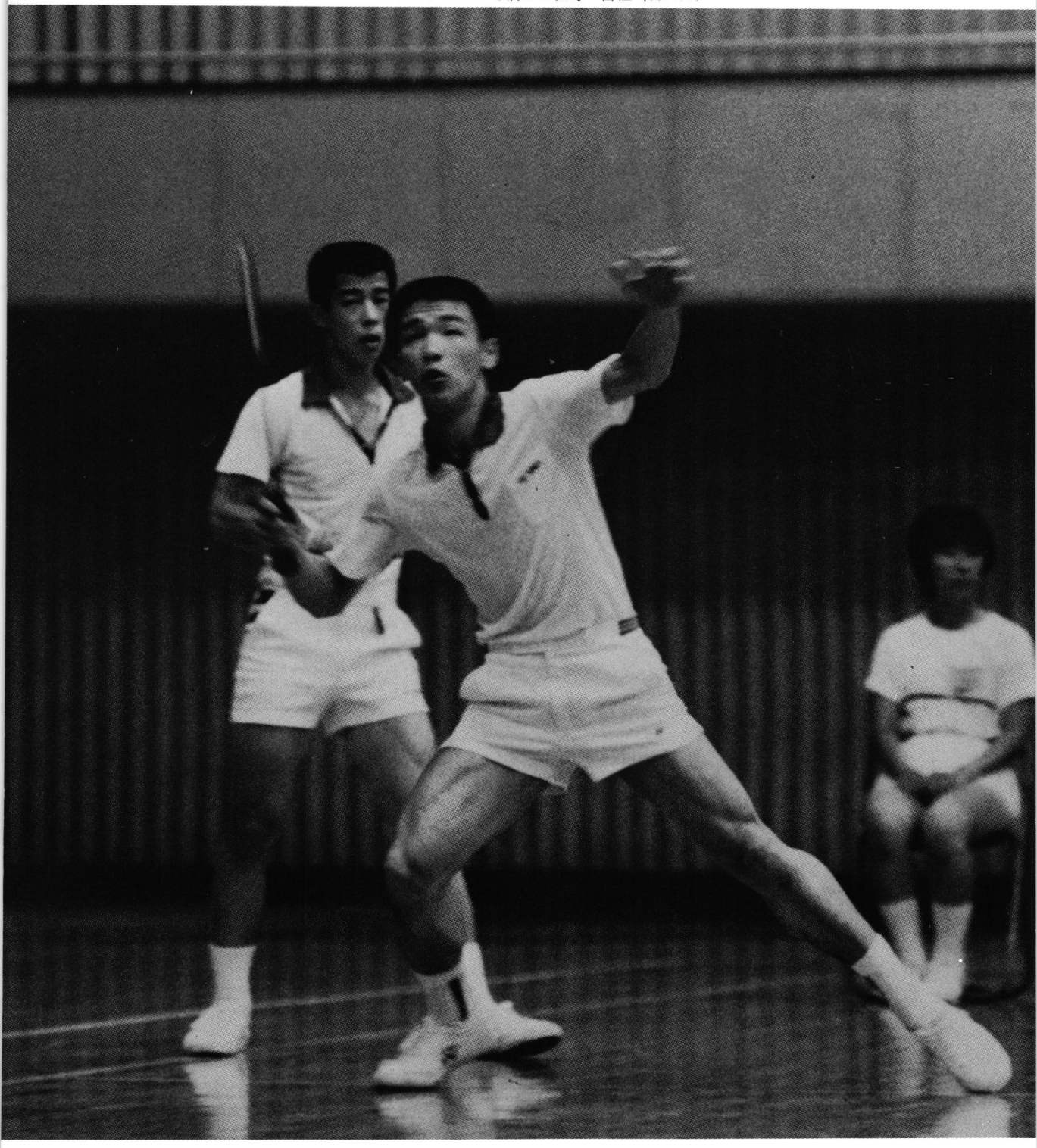


男子シングルスを制したのは超大型の松浦（草津高）

大器の片リンを見せてシングルスに圧勝した陣内（熊本中央女）



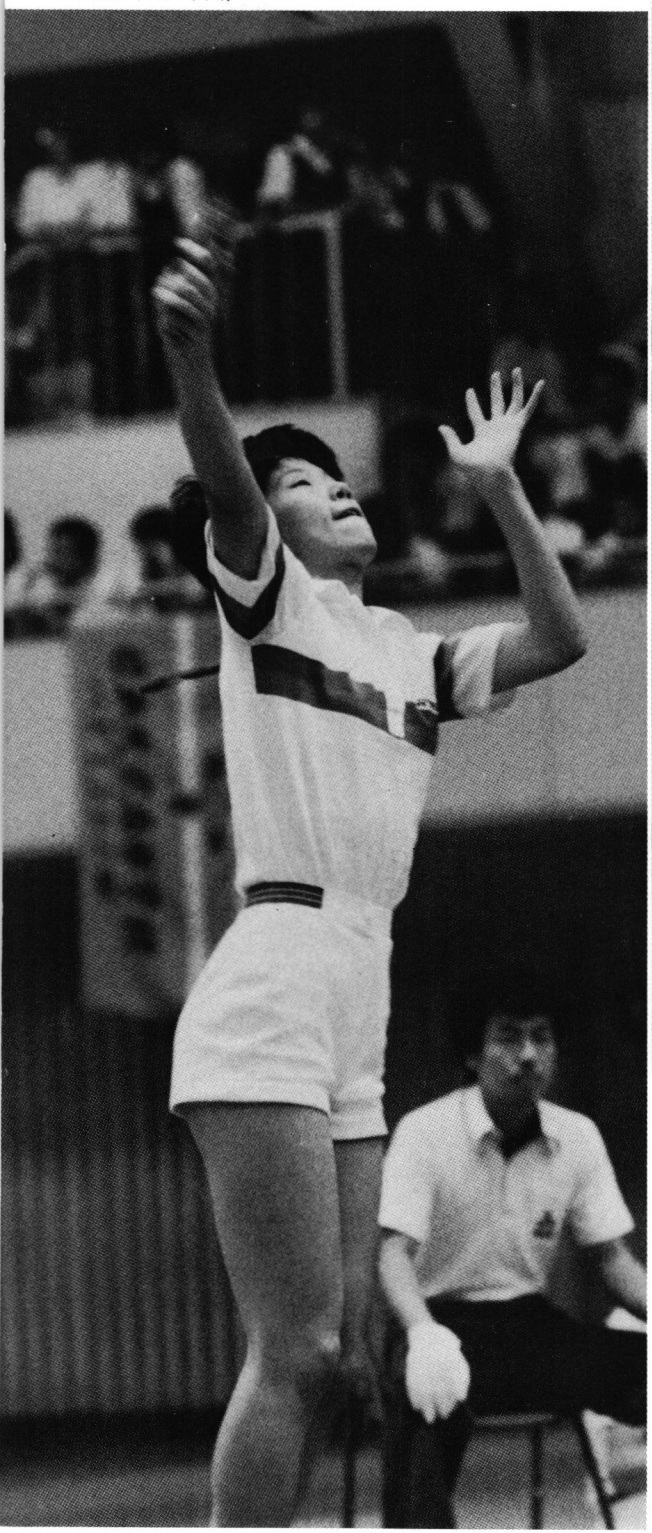
危なげなく男子ダブルスを制した松野・宮組（日川高）

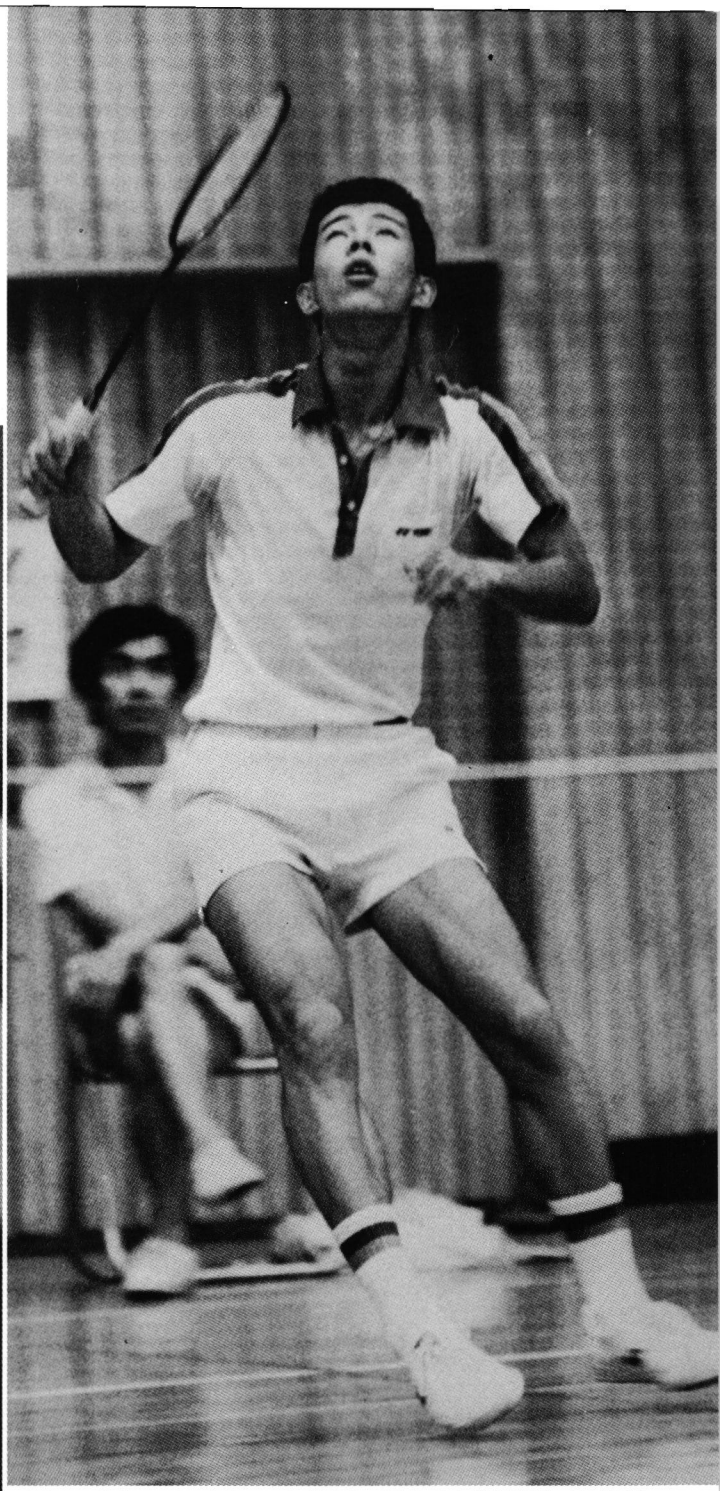




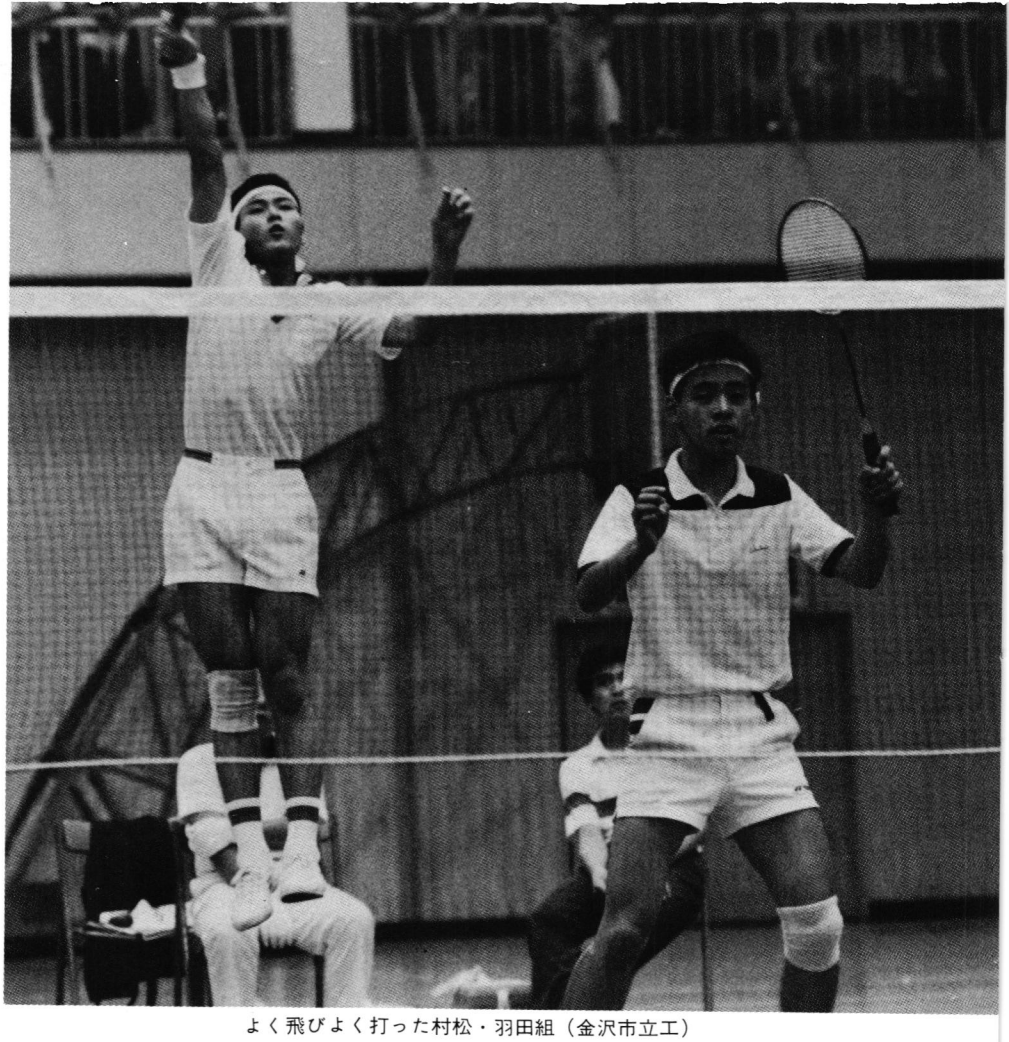
期待に応えて女子ダブルスに優勝、陣内・井村組（熊本中央女）

落ち着いたコートマナーの女子シングルス準優勝、
山内佳（高松中央）





〝秋山二世〟の呼び声高かった松野だが惜しくも準優勝勝（日川高）



よく飛びよく打った村松・羽田組（金沢市立工）

ダブルス巧者ぶりを発揮して準優勝の山内美・石崎組（新潟青陵）



勝利へひた走る
鮮烈のプロショップ

ラケットショップ元町®

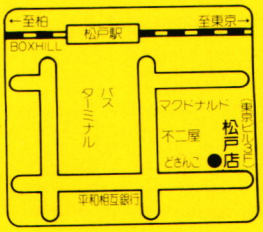
ご要望があればどこへでも、
最高のスタッフが……!!

とんで! まわって!
コーチして!!

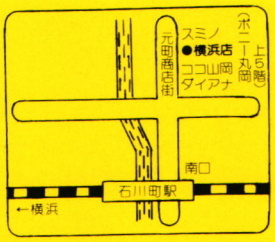
無料巡回コーチング・サービス



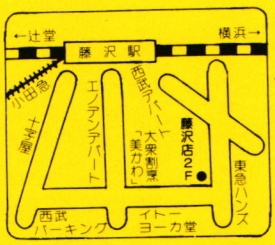
®



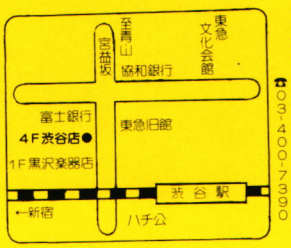
●松戸店
バドミントン・プロショップ
☎0473-64-6284



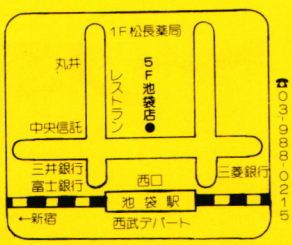
●横浜店
5F テニス・フロア
☎045-621-2020
4F バドミントン・フロア
☎045-662-9857
☎045-662-7133



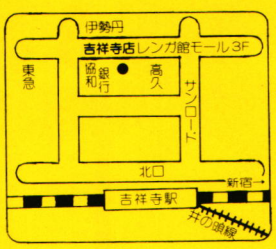
●藤沢店
テニス・バドミントン
☎0466-26-2552



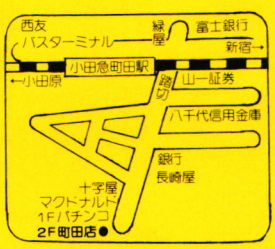
●渋谷店
バドミントン・プロショップ
☎03-3400-7390



●池袋店
バドミントン・プロショップ
☎03-988-0215



●吉祥寺店
バドミントン・プロショップ
☎0422-21-7890



●町田店
バドミントン・プロショップ
☎042-728-6050

バドミントン 8

❶ グラフ 第32回インターハイから	㊱ 銭谷欽治 チャンピオンをめざせ
❿ インターハイ 男子団体——日川高が初優勝	㊳ ワールド・ゲームス 中国が四種目を制覇
⓬ インターハイ 女子——熊本中央女が完全連覇	㊶ グラフ 第32回インターハイから
⓮ 日川高校・金子寛監督 名門校とその名物監督	
⓰ 熊本中央女・工藤勇参監督 名門校とその名物監督	
⓲ インターハイ全記録	
㉜ 小島一平 ガッツ・オピニオン	
㉞ 飯野佳孝 テクニックを盗め	

◇表紙デザイン・構成，本文カット＝野間デザイン室，長谷部憲和
◇今月の表紙＝第32回インターハイ、男子ダブルス優勝の松野・宮組（日川高）

男子 団体・個人

子単は松浦に栄冠

「はばたけ青春、広げよう友情」第32回全国高等学校バドミントン選手権大会は、8月1日から6日間、神奈川県藤沢市および平塚市で開催された。

連日、例年を上回る猛暑となったが〝若人の祭典らしく暑さを吹き飛ばす好試合が展開された。

男子団体の行方は、まさに戦国時代さながらの混戦模様だった。

優勝した日川高も、3回戦で高岡第一に大苦戦を強いられ、薄氷を踏むような戦いぶりだったし、春の選抜を優勝して今大会の優勝候補の呼び声が高かった比叡山も準々決勝の対東奥義塾戦では、いち時はベスト4進出も危ぶまれたほど。

ベスト8へ進出した、日川高、比叡山、東奥義塾、奈良一条、金沢市立工、日本大高、九州学院は、極論すればオーダー次第でいずれも優勝のチャンスがあった。

その点で、日川高は松野、宮兄をひとつのペアにせず、柔軟性のあるオーダーを組み、対戦相手によってまったく異った戦法を採ったのが好結果につながったといえる。

松野、宮兄にそれだけ信頼があったということと、土屋、宮弟がその起用に応えて十二分に実力が発揮できたということ。

二人のエースを持ったことが、相手校のオーダーを読む余裕となったようだ。

優勝を逃がしたチームにとっては、少なからず悔いが残るものであろう。

とくに、準優勝に終った日大高は、準決勝でダブルスの要・奈良が脚にケイレンを起こしてしまい、決勝では善戦したものの戦わずして勝利の女神に見放された感があった。

それにしても、ベスト8以上はどのチームが勝ってもお可笑くない戦力で、しかもそれぞれが東北、関東、関西、九州、北陸の代表であり、全国に平均化した分布図となった。

この傾向はまだ当分は続きそうな気配である。

個人戦に目を移すと、ダブルスで優勝した松野・宮組は、攻撃力でとくに目立つところはなかったが、レシーブから攻撃へ移るソツのなさで群を抜いた存在だった。

佐々木・葛西組、片岡・辻田組は、ダブルス巧者らしい型は持っているのだが、決め手になる大砲の威力に欠け、いまひとつ実力を出し切れなかったのは残念。

シングルスは、松浦、松野、豊田が〝三羽烏〟といったところ。

大砲の松浦、脚力の松野、センスの豊田。

しかし、松野、豊田は団体、個人戦と戦い抜いたダブルス疲労からか、松浦のスマッシュを

優勝に大きく貢献した土屋・宮弟組（日川）



'81 インターハイ　藤沢・平塚

日川高が初優勝、男

最後までつかまえることができなかった。

ともに、2ゲーム目後半はスコアも松浦と並らび勝機は十分にあったのだが、松浦のスピンサービスからの速攻を終盤に繰り出す巧みな戦法に、望みを断たれてしまった。

松浦は、百八十五センチあまりある長身を利して、力で押し切る久し振りの大型プレーヤー。しかも、大型プレーヤーにありがちなレシーブのもろさがなく、ヘアピンもスピンをかける技術を持ち合わせている。

最後は、「足がつりそうだった」というが足腰の強化次第では将来楽しみな選手である。

村松、北村も、特異な存在として気を吐いた選手。

村松は、サウスポーから小気味のよいショットで松野を苦しめ、北村はやや変則的なフォームから松浦を泳がせ、互角に打ち合った内容は高く評価できる。

また、その村松を団体戦で破った見市、日川優勝に大きく貢献した宮弟は、まだ1年生でありながら、キャリアのなさを感じさせないテクニック、試合運びは、来年、再来年が大いに期待されるところ。

男子シングルス優勝の松浦進二選手の話……最後は足がつりそうだったので、無我夢中で打ちました。ボクとしては豊田君の方が、どちらかというと相性がいいのでやはり決勝が一番きつかった。松野君はダブルスがあったのでバテたのでは…。

男子ダブルス優勝の宮健次選手の話……高岡第一、比叡山と苦しい試合が続いたのでなおさら嬉しいです。（昨年のインターハイで骨折して）いち時肥ったりして辛かったけど、勝ててよかった。

男子ダブルス優勝の松野修二選手の話……シングルスに負けて口惜しくないといったらウソになりますが…。団体優勝は考えてもみなかったので、とても嬉しいです。

男子シングルス3位の豊田裕選手の話……前日までが楽にいきすぎました。松浦君とは1勝1敗だったんですが、準決勝では脚が思うように動かなくて残念です。でも、今はスッキリとした気分です。

男子シングルス3位、ダブルス2位の村松博選手の話……団体戦は悔いが残ります。ダブルス決勝は1・2ゲームともリードしていながら、ここというところで1本取れなくてモタモタしてしまいました。この口惜しさを大学生活にぶつけます。

もう一歩だった日大高



女子 団体・個人

覇〝陣内が三冠王

戦前から、今年はハイレベルの高校女子といわれていたが、いざフタを開けてみると、ユーバー杯選手・陣内の大活躍で熊本中央女の独壇場となった。

しかし〝ハイレベル〟と予想されただけに各校とも持てる力を充分に出し切った好ゲームが展開された。

とくに健闘したのが、ベスト4へあと1ポイントと迫った小山城南。

シングルスの平間が踏ん張って第2ダブルスへ持ち込んだ四条畷戦、三沢・鈴木組が中盤から攻撃のリズムをつかみ、優勢のうちに大詰めを迎えたが、マッチポイントからの再三のチャンスを逃がしてしまった。

何とも大きな1ポイントであったが、土俵際の二枚腰をみせた四条畷の久世・押切組の粘りは賞讃に値するものだった。

しかも、準決勝では熊本中央女を相手に、小山城南戦での勢いをそのまま持つ込み、第2ダブルスであわやと思わせる場面を作るなど、名門・四条畷の底力をまざまざと見せつけてくれた。

この様子では、来年はまた四条畷が王座を奪回しそうなムードである。

粒揃いの選手を擁し、春夏連覇を目論んだのが、高岡女。

よく鍛えられた体力、脚力は全国を制すに十分のものだったが、決勝ではそれまでの試合からは考えられないような集中力散漫なプレーで、野望を達成することはできなかった。

熊本中央女の優勝は、何よりもエース陣内の大車輪の活躍によるところが大きいが、昨年決勝の舞台を踏んだ井村が、ダブルスの軸となってリードした力を忘れることはできない。

ここの一年間、故障続きでいち時は諦めたこともあったという。

1メートル52の体で故障に打ち克った〝小さなファイター〟に拍手を送りたい。

個人戦は、ダブルス、シングルスともに陣内が危なげない勝ちっぷりで制したが、さすがナショナルチームに選ばれただけにショットの切れはピカ一、しかも海外遠征の経験が実ってか、試合運びにも一段と成長の跡がうかがえた。

想像を上回る前評判の高さがかえって重荷になったのか、その表情に悲壮感さえ漂よわせ、決して快進撃のそれではなかったが、そのプレッシャーをはねのけたあたりに一番の成長を見ることができた。

ダブルスで陣内・井村組に迫った山内美・石崎組は、山内の巧みな配球と石崎のスマッシュ力で、安定した力を発揮、未知の魅力を秘めた森山・三由組（2年）とともに優勝戦線を大いに賑わしてくれた。

シングルスでは、優勝候補の一角に挙げられていた平間、森山の敗退が惜しまれる。

優勝を決めた井村・高峰組（熊本中央女）



'81 インターハイ　藤沢・平塚

熊本中央女〝完全連

平間は永井に、森山は北崎に、打っても打っても拾われて根負けしたように自滅していった。

永井も北崎も、ただ無心で走りまくった無欲の勝利といえようが、決して気を緩めてはならないインターハイの怖さを示すものだった。

ベスト4へ入った田向は、力強いストロークで安定感があったが、準決勝では中盤から集中力が切れたような戦いぶり、もっと開き直っていればと思うと残念な試合。

その回向を降した山内美は、佳満を持して後半に勝負を賭ける遅攻タイプだが、長身からのスマッシュには角度もあり大器の素質十分、惜しむらくはもう少しスピードがあればと思われるのだが。

上位には進出しなかったが、陣内と対戦して一番健闘したのが3回戦での増子。

大柄な体から繰り出すストロークは、陣内と互角の力強さを持ち、ドリブンクリアー、スマッシュの応酬はなかなか見応えのあるものだった。

聞くところによると、増子は高校へ入ってからバドミントンを始めたという。

選手の低年齢化が叫ばれ、中学校からの経験が偏重されているが、高校からでも立派に選手は育つ好例。

時代の流れに逆行するようだが、高村からでも良い素材を発掘する努力が、もっと見直されるべきではないか、という示唆のような気がする。

女子三冠王となった陣内貴美子選手の話……（期待が大きくてプレッシャーはなかったかの質問に）苦しかったです。どこかでつぶされると思っていました。団体とダブルスが終ったら、急に涙が出てきて仕方なかった。国体戦が終って、みんなでコーヒーで乾杯しました。

女子ダブルス優勝の井村由美選手の話……高校生最後の試合に勝てて本当に嬉しいです。故障を乗り越えることができてよかった。

女子シングルス準優勝の山内佳子選手の話……（成績は）満足しています。期待されてプレッシャーはありましたが、力は出し切れたと思います。陣内さんはプレーヤーとしても、人間的にも優しくて、とても素晴らしい人だと思います。

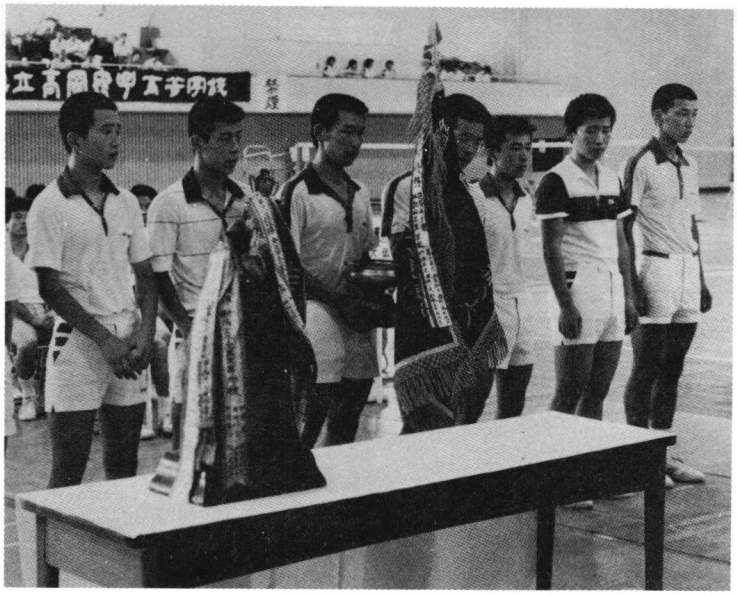
女子ダブルス準優勝の山内美子選手の話……石崎さんのスマッシュは効いていたのに、私が打ち切れなくて…。**同・石崎咲知子選手の話**……相手があまり上げてこなかったので攻められなかった。2ゲーム目、もう1本取っていればと思います。

（記録は18～20、29～31ページ）

準優勝の高岡女、この口惜しさは来年に……



名門校とその名物監督——山梨県立日川——監督・金子寛



喜びもひとしおの日川高校

練習試合で負けた比叡山を破り、嬉しい誤算

日川高校といっても、バドミントンファンには馴染が薄い。

創部以来20年は経つというのだが、何せ山梨県には甲府商という名門校があり、インターハイ出場回数も18回と他を圧してきた。

日川高校は、3年連続4度目の出場で大殊勲を果たし、山梨県に新しい名門が誕生した。

ここ数年、急速に台頭してきた秘密はいったいどこにあるのだろう。

慶大時代にプレーヤーとして鳴らした金子監督は、まだ三十歳そこそこの若さ。

松野修二選手のお父さんである松野辰也氏が、熱心なコーチであることも有名。

また、山梨県が生んだ名プレーヤー、秋山真男氏が練習相手に出向くこともよく耳にする。

これら、ベテラン、若手の指導者が一体となって築き上げたのが日川高校の現在ということらしい。

幸いインタビューは、これらのスタッフが勢揃したまたとないチャンスに恵れた。

まずはともあれ、各氏の声を聞いて頂きたい。

——優勝おめでとうございます。素直な感想とその勝因についてお聞かせください。

金子監督　もちろん優勝は狙っていました。狙っていましたが、実は比叡山高がウチに練習試合に来て、全然歯が立たなかったのでまさかと思っていました。それだけに嬉しいですね。（全員異口同音にうなづく）

松野コーチ　主力も立派に役目を果たしましたが、それよりも3番手、4番手の選手が予想以上の力を出してくれた。これが大きかった。

弦間先生　松野、宮もヨーロッパ遠征などがひとつのモーメントになって、順調に伸びていたしね。

——その松野、宮君が1年生で脚光を浴び、今年は3年生になって期待されていたと思うんですが、この1年間のスケジュールなどはどんな具合いだった

学校が文武両道を奨励。中学からの育成が実る

んですか。

弦間先生　特にこれといって特別のことはしなかった。というより遠征に行ったりする暇がないほどに、高岡一、日大鶴ヶ丘、桐生、比叡山などが来てくれ、法政の久郷君をはじめ大学生も多勢来てくれましたからね。

松野コーチ　そうね―。特に久郷君が合宿で、国体戦を想定してあらゆるペアを組んでみたり特訓してくれたことが効果的だった。

――最近、急速に日川が強くなったということは、どういうことなんでしょうか。

松野コーチ　それは、高校を強化するには、まず中学に力を入れなければと金子先生と話し合って、山梨全体は無理だから、日川高校の学区内にスポーツ少年団を作ったんです。そしてその中から中学校、高校へと連携プレーで選手を育てようと。

金子監督　松野さんは今でも中学を熱心に教えておられるんです。

松野コーチ　中学生が日川高へ行ったり、合同で練習することも多いんです。その意味からも、今年の優勝は中学生の励みにもなると思います。

――松野君の脚を見ていると、筋肉質のたくましい脚になったし、トレーニングも随分やったのではと思うんですが。

金子監督　それほど多くはないと思います。練習は毎日できるのでその練習前に20分ぐらいダッシュを主体にやる程度です。あとは各人の自主トレに任せてあります。

松野コーチ　彼らは、日頃からバスケット、ハンドボールなどをこなしていますから、総合的な体力があるんです。

弦間先生　今年の1年生は、80パーセントは体育部に所属しています。それくらい学校がスポーツを奨励しています。水泳実習では静岡に行って遠泳をやったり、校内の10km競走や、競歩があったりで、文武両道というのが学校の方針なんです。県内の総合体育大会でも2位をダブルスコアの差をつけて優勝しています。校内の10km競走では、バドミントン部の生徒は陸上部の次位ぐらいで上位を占めてますね。

――練習試合で比叡山に負けたということですが、そのへんの話をもう少し詳しくお願いします。

金子監督　とにかく比叡山は強かったですね。松野・宮のペア、松野のシングルス以外はほとんど負けました。しかし後で考えると、ウチは試験明けで練習不足だったこともありますが。

弦間先生　しかし、団体戦で松野と宮を組ませることはできませんからね。

松野コーチ　それでダブルスを強化したんです。とにかくネットを越すようにと。打つときと守るときが中途半端にならないようにと。それを久郷君が、実に上手く指導してくれました。

久郷コーチ　正直いって勝てるとは思いませんでした。松野・宮の看板はあるけど、第3の選手が伸びてくれなければ無理だと思っていました。それを土屋が立派に務めてくれました。土屋の活躍につきると思います。キーポイントは、宮と組むコンビの出来にかかっていると思い、宮を中心にあらゆるペアを作り、1ゲームマッチでシゴイたんですが、思った以上に成果が上がりこんなに嬉しいことはありません。

――最後に秋山さんにひと言お願いします。

秋山氏　まあ指導者や関係者が一丸となって頑張ったからだと思う。しかし、それ以上に選手が頑張ったということじゃないかな。彼らを1年生のとき見て、打ち終った後のバランスなどが良かったので、これは強くなるとは思っていたが、できれば2年生で優勝させたかった。日川の生徒は素直だから、吸収するのも早かったのだと思う。この優勝は自信になるはず。私も経験あるが、挫折しそうになったとき、この優勝というのが支えてくれる。でも、これはひとつの節目だから、これからは一段一段、階段を登って世界に通用するようなプレーヤーを目指して欲しい。



喜びいっぱいのコーチングスタッフ、前列左から野呂瀬氏、弦間先生、松野コーチ、金子監督、後列左から秋山氏、宮氏

名門校とその名物監督

熊本中央女子 監督・工藤勇参



大望を果たしてホットした表情の熊本中央女・全選手

2年連続三冠は打倒四条畷を目標にしたお陰

熊本中央女は、昨年、四条畷の6連覇9度目の記録を阻止して団体、個人に完全優勝を果たしたが、今年も下馬評通りの快進撃を続け、見事に2年連続三冠を独占した。

いかにも南国チームらしい明かるいムードを持ち、積極的な攻めのバドミントンに徹する熊本中央女。

全国大会へ進出したのは昭和51年の個人戦ダブルスがスタート、以来52年からは連続して団体代表の座をつかみ、常に〝熊本旋風〟を巻き起こしてきたことは記憶に新しい。

チームを預かる工藤勇参監督は、今年36歳の青年監督。

現役時代は、西日本では無敵の強さを誇り、ナショナルチームのメンバーにも選ばれたこともあり、全日本教職員大会では輝やかしい戦績を残している。

小島一平氏いわく「彼ほど生真面目なプレーヤーはいない。鉄アレーで鍛えた方が良いとアドバイスすると、体がこわれるまでやった」。

バドミントンに取り組む工藤監督の姿勢を表わす、格好のエピソードである。

そして熊本中央女には、選手、監督の良き相談役として、バドミントンにはまったく素人ながら森下先生という引率者が同行している。

あるときは応援に、あるときは選手と監督のパイプ役にと、チームをまとめる上でなくてはならない存在だったという。

全国制覇の陰には、先生方の二人三脚の苦労があったに違いない。

では、インタビューによってそのチームカラーと、監督の人となりを垣間見てみよう。

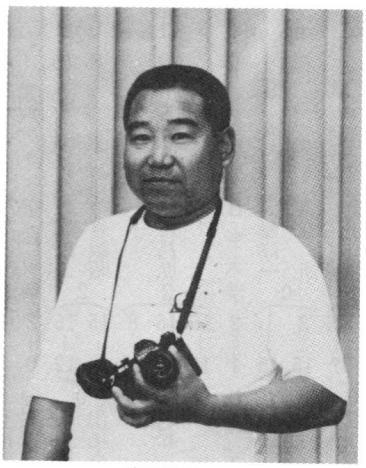
――優勝おめでとうございます。素直な感想をまず。

工藤監督　いやー、ラッキーでした。ご覧のように決して楽な試合ではありませんでしたが、本当にラッキーでした。しかし、終わってホッとしたというのが実感です。

森下先生　その通りですね。

1年中ノックの雨、古シャトル5千個が財産


工藤勇参監督


森下先生

――一番苦しかったのはどの試合ですか。

工藤監督　どこということはありませんが、やはり心理的には四条畷ですね。何よりもまず四条畷という名前は大きいですから。準々決勝の小山城南戦を見ても分るように、ここ一本という土壇場での底力を持っていますから。オーダーにも神経を遣いました。

――陣内という切り札を持っていてもですか。

工藤監督　ええ、そうです。四条畷は十五年の伝統があり、こちらはその三分の一の歴史しかありません。それに昨年は、高峰和というエースがいてオーダー的にも楽でしたが、今年はその役割りを果たすはずの井村が体をこわして立ち遅れていましたから心配しました。

森下先生　初めに膝を悪くし、足首、肩を痛め、スランプに悩むあまり十二指腸潰瘍にまでなってしまいました。しかし、よく立ち直ってくれました。

工藤監督　本当によく頑張ってくれたと思います。

陣内も、ナショナルチームに選ばれたお陰で、踏ん張れる精神力がこの一年間でついたような気がします。

――大会前のコンディションの調整方法はどのようにしたのですか。

工藤監督　7月28日まで体育館を閉め切って、温度を39度まで上げて、4～5時間みっちり練習して臨みました。7月に入ってからシャトルを40ダース近く使いました。ウチとしては珍らしいことなんですが。暑さに馴れることがまず先決ですからね。

――昨年完全優勝を果たして、今年それを意識するようなことはありませんでしたか。

工藤監督　それは全然ありませんでした。ただガムシャラにやるしかないですからね。守ると か受け身の気持はまったくありませんでした。

森下先生　普断の練習は、そんなことで変わるものではありませんから。

――普断の練習というと、熊本中央女のノック練習は有名なんですが。

工藤監督　お金がありませんから。（笑い）近所の学校などから使い古しのシャトルをもらってきたりして、年中ノックしています。

実戦を想定した型、それも攻撃の型だけを二十七通り作ってやらせています。古いシャトルは全部で五千個ぐらいありますが、壊れたらボンドで修理してまた使います。新しいシャトルは1週間に1個も使わないことがあります。

――攻撃にそれだけ徹するというのは何か理由があるのですか。

工藤監督　それは、九州人の性格と合っているからなんです。四条畷には大阪商人の粘り、守りという気質が生かされているように、猪突猛進型の九州の人間には攻撃が一番合っていると思うんです。

それに、よく人から忠告されるんですが、あんなに女の子をジャンプさせなくてもいいじゃないかと。しかし、1センチでも2センチでも高い打点で打つことは意味のあることです。また、ジャンプしたら相手は身構えて固くなるんです。

もうひとつ大きな理由は、私は選手を高校だけで終わらせたくないんです。高校はひとつの段階に過ぎません。好きなバドミントンを、大学へ行っても企業へ行っても続けてもらいたい。そして、その人間なりに最大限の成長をして欲しい。そう願っています。だから、高校では攻撃しか教えません。

レシーブや、試合のテクニックは後からでも十分身につきます。それは大学なり、企業にお任せします。私は、高校では選手を小さくしないよう、伸び伸びとした攻めだけを教えてたいんです。

また、ウチの生徒を見てください。明かるいでしょう。

バドミントンは好きだからやる、楽しいからやるもので、学校のためや、まして先生のためではないということをよく理解させた上でやらせている積りです。

高校を卒業しても、バドミントンを続けたくなるような意欲を失わせたくありません。

◆男子団体

▽1回戦

水沢農 2—1 山門（岩手）（福岡）
桐生市立商 2—0 加納（群馬）（岐阜）
足羽 2—1 柳井工（福井）（山口）
仙台商 2—1 鹿児島（宮城）（鹿児島）
石岡第一 2—0 今治北（茨城）（愛媛）
土佐 2—0 三重農（高知）（大分）
中野 2—1 柏原（長野）（大阪）
瓊浦 2—1 甲南（長崎）（兵庫）
会津工 2—0 広島国泰寺（福島）（広島）
洛星 2—0 白石（京都）（佐賀）
東海 2—0 出雲農林（愛知）（島根）
越谷南 2—0 宮崎工（埼玉）（宮崎）
山形東 2—0 徳島市立（山形）（徳島）
那覇 2—1 倉敷工（沖縄）（岡山）
横手工 2—1 滝川工（秋田）（北北海道）
三条商 2—1 宇都宮南（新潟）（栃木）
新宮 2—1 若松（和歌山）（千葉）

▽2回戦

比叡山 2—0 水沢農（滋賀）
桐生市立商 2—1 足羽（群馬）
仙台商 2—1 森（南北海道）
東奥義塾 2—1 石岡第一（青森）
伊勢工 2—1 土佐（三重）
逗子開成 2—0 中野（神奈川）
高岡第一 2—1 瓊浦（富山）
日川 2—0 会津工（山梨）
金沢市立工 2—0 洛星（石川）
日大鶴ヶ丘 2—0 東海（東京）
越谷南 2—0 境港工（鳥取）
奈良一条 2—0 山形東（静岡）
日本大学 2—0 那覇（神奈川）
横手工 2—1 高松商（香川）
三条商 2—0 伊東（静岡）
九州学院 2—0 新宮（熊本）

▽3回戦

比叡山 2—0 桐生市立商
東奥義塾 2—0 仙台商
逗子開成 2—0 伊勢工
日川 2—1 高岡第一
金沢市立工 2—0 日大鶴ヶ丘
奈良一条 2—0 越谷南
日本大学 2—1 横手工
九州学院 2—0 三条商

▽準々決勝

比叡山 2—1 東奥義塾
片岡 泰 0 2—15 佐々木朝幸
辻田泰晴 9—15 2 葛西孝輝
杉本吉男 2 15—7 10—0 高橋優誠
前川正則 2 18—13 8—1 兼坂省一
西川 勉 9—15 15—8 15—0 尾崎 弘
日川 2—0 逗子開成
宮 健次 2 15—0 15—4 0 田中 均
土屋 稔 2 15—12 15—1 0 上床宣孝
松野修二 2 15—10 15—8 1 村松 博
見市昌弘 2 15—9 15—9 8—15 0 山尾克則
中谷敏昭 2 15—9 15—12 0 羽田義仁
菊池雄二 15—3 15—2 0 金沢市立工
奈良一条 2—0 金沢市立工
伊藤淳一 0 3—15 1—15 2 伊東幸男
岡部 元 0 15—3 15—7 2 福田和幸
豊田 裕 2 15—2 15—0 0 松川稔己
日本大学 2—1 九州学院

▽準決勝

奈良秀行
杉山文則 2 15—7 15—11 11—15 1 山口浩一
田中幸男
日川 2—0 比叡山
安間 2 15—9 18—13 0 小原 杉本
宮 2 15—9 15—12 0 福田 見市
松野 2 15—9 15—2 0 前川
日本大学 2—0 奈良一条
奈良 2 15—12 15—9 0 福田 見市
杉山 2 15—10 15—12 0 山口 豊田
豊田 2 15—0 15—12 0 山口 豊田

▽決勝

日川 2—1 日本大学
松野 2 15—10 15—13 0 豊田 伊藤
宮 2 15—3 18—17 0 山本 岡部
斉藤 0 0—15 2—15 2 杉山 宮
土屋 2 15—3 18—17 0 山本 岡部

◆女子団体

▽1回戦

増穂商 2—1 諏訪二葉（山梨）（長野）
盛岡市立 2—0 日和佐（岩手）（徳島）
奈良一条 2—0 岩陽（奈良）（山口）
八幡大附 2—0 昭和学院（福岡）（千葉）
福井工大附 2—1 松阪（福井）（三重）
磐城女 2—0 南部商（福島）（沖縄）
土佐女 2—0 新宮（高知）（和歌山）
金沢向陽 2—0 宮城第二女（石川）（宮城）
佐賀女 2—0 隠岐（佐賀）（島根）
川口女 2—1 松山南（埼玉）（愛媛）
滋賀女 2—0 米子西（滋賀）（鳥取）
巣鴨女 2—1 愛知淑徳（東京）（愛知）
山形城北女 2—1 宮崎商（山形）（宮崎）
札幌静修 2—1 鈴峯女子（南北海道）（広島）
鉾田第二 2—0 昭和女子（茨城）（大分）
前橋東商 2—1 知覧（群馬）（鹿児島）
吉原 2—1 成安女（静岡）（京都）

▽2回戦

熊本中央女 2—0 増穂商（熊本）
奈良一条 2—0 盛岡市立（奈良）
弘前学院聖 2—0 八幡大附（青森）
砂川南 2—0 福井工大附（北北海道）

小山城南 2—0 磐城女
（栃木）
土佐女 2—1 岐阜女商
（岐阜）
金沢向陽 2—0 横浜立野
（神奈川）
四条畷学園 2—0 佐賀女
（大阪）
高岡女 2—0 川口女
（富山）
鶴鳴女 2—1 滋賀女
（長崎）
山陽女 2—0 巣鴨女
（岡山）
園田学園 2—0 山形城北女
（兵庫）
横浜女商 2—0 札幌静修
（神奈川）
高松中央 2—0 鉾田第二
（香川）
前橋東商 2—0 秋田経大附
（秋田）
新潟青陵 2—0 吉原
（新潟）

▽3回戦

熊本中央女 2—0 奈良一条
砂川南 2—1 弘前聖愛
小山城南 2—0 土佐女
四条畷学園 2—0 金沢向陽
高岡女 2—0 鶴鳴女
園田学園 2—1 山陽女
高松中央 2—0 横浜女商
新潟青陵 2—0 前橋東商

▽準々決勝

熊本中央女 2—0 砂川南
陣内貴美子 2—0 瀬川真由美
青木きよみ 2—0 酒井祐理子
高峯尚子 2—0 高橋真奈美
四条畷学園 2—1 小山城南
新木千織 2—0 猪瀬美津枝
松田太嘉子 2—0 伊藤京子
鴻原春美 2—1 平間真由美
久世有美 2—1 三沢真奈美
押切美喜 2—1 鈴木京子

高岡女 2—0 園田学園
原田祐子 2—0 谷口須美子
田向和子 2—0 小泉陽子
大谷鶴美 2—0 谷沢信子
新潟青陵 2—1 高松中央
山内美子 2—0 永井明美
石崎咲知子 2—0 中川富美子
小嶽江理香 2—0 山内佳子
本田佳代子 2—0 佃貴子
松井保恵 2—0 真鍋照美

▽準決勝

熊本中央女 2—1 四条畷学園
畑野 2—0 新木
青木 2—0 松田
陣内 2—0 鴻原
井村 2—0 久世
高峯 2—0 押切

高岡女 2—0 新潟青陵
原田 2—0 松井
田向 2—0 小嶽
大谷 2—0 本田

▽決勝

熊本中央女 2—0 高岡女
井村 2—0 原田
高峯 2—0 田向
陣内 2—0 伏喜

◆男子シングルス

▽1回戦

丸山明 2—1 池田英也
（三条商）（米沢工）
安達利之 2—0 豊島真一郎
（松江商）（塩田工）
佐藤浩 2—0 竹市勝
（市立尼崎）（諫早）
加藤義雄 2—0 松岡正人
（宇都宮南）（岐阜）
上床宣孝 2—1 狩野秀一
（逗子開成）（宮城県工）
橋本順弘 2—0 関勤也
（市立福山）（都久川）
安藤秀雄 2—1 山本芳久
（柏原）（千葉北）
加藤敬二 2—0 宮崎伸二
（今治北）（篠ノ井）
的場昭人 2—0 岩上正明
（海城）（会津工）
見市昌弘 2—0 清水裕
（奈良一条）（日和佐）

前田忠則 2—0 田中良典
（足羽）（鹿児島）
米原要 2—0 木村孝
（倉吉工）（紫野）
笠島卓 2—1 田原鴨也
（宮崎工）（山口）
木村直樹 2—0 江原均
（岩見沢東）（石岡第一）
中村昌志 2—0 比嘉正二
（名古屋電）（石川）
大沢敏雄 2—0 岩渕浩
（桐生市商）（前沢）
山本浩之 2—0 浜松裕司
（鎌倉）（城南）
阿部慎哉 2—0 丸山隆
（遠野）（須坂東）
瀬田和正 2—0 片桐哲也
（北須磨）（桐生市商）
上原譲 2—1 黒木明
（伊東）（宮崎工）
斉藤郁 2—0 田中俊幸
（足羽）（格星）
横尾宣幸 2—0 佐藤邦彦
（石岡第一）（水島工）
日下実 2—0 江口辰美
（高松商）（佐賀工）
大浦満 2—0 狩野義則
（越谷南）（佐沼）
村上修一 2—1 三浦勝博
（今市）（旭川西）
北田宗男 2—0 冨里一公
（近大附）（那覇）
目野俊昭 2—1 青木裕二
（山門）（中央学院）

山田恵一 2—0 松本信昭
（会津工）（広島井口）
小関信一 2—0 立原政幸
（山形東）（松江西）
宮康二 2—0 三福靖史
（日川）（土佐）
山田賢一 2—0 戸崎友博
（高岡第一）（岐阜工定）
児島浩 2—0 水元隆一
（新宮）（鹿児島商）

▽2回戦

松野修二 2—0 丸山
（日川）
安達 2—0 牧野和之
（旭川実業）
佐藤 2—0 溝渕樹
（土佐）
加藤 2—0 片岡洋一
（水島工）
杉本吉男 2—1 上床
（比叡山）
上田啓夫 2—0 橋本
（高岡第一）
丸谷昭三 2—0 安藤
（秋田工）
梅津裕一 2—0 加藤
（伊勢工）
伊東幸男 2—0 的場
（九州学院）
見市 2—0 真浩之
（富士宮北）
前田 2—0 尾崎弘
（東奥義塾）

杉山文則（日本部学）2—0 米原
大（草津）
十河昌二（高松商）2—0 笠島
児島 智（新宮）2—0 木村
長内征美（越谷南）2—0 中村
村松 博（金沢市工）2—0 大沢
松浦進二（草津）2—0 山本
阿部（鳥羽）2—0 野呂徹
瀬田（境港工）2—0 船越賢一郎
上原（札幌手稲）2—0 早川宏之
斉藤（瓊浦）2—0 一瀬浩美
横尾（弘前南）2—0 柳谷辰哉
北村喬樹（日大鶴丘）2—0 日下
大浦（三条商）2—0 丸山晃男
原田利雄（二ッ井）2—0 村上
杉山 覚（山口）2—1 北田
羽田義仁（金沢市工）2—0 目野
富田俊二（名古屋電）2—0 山田

菊池雄二（奈良一条）2—0 小関
宮 2—0 山口浩二（九州学院）
田坂祐二（西条農）2—0 山田
豊田 裕（日本大学）2—0 児島

▽3回戦

松野 2—0 安達
加藤 2—1 佐藤
上田 2—1 杉本
梅津 2—0 丸谷
伊東 2—0 見市
杉山 2—1 前田
児島 2—1 十河
村松 2—0 長内
松浦 2—0 阿部
瀬田 2—0 上原
横尾 2—0 斉藤
北村 2—0 大村
原田 2—0 杉山
松浦 2—0 瀬田
伊東 2—0 杉山
上田 2—0 梅津
松野 2—0 加藤
豊田 2—0 田坂
菊池 2—1 宮
羽田 2—0 富田
北村 2—0 横尾
松浦 2—0 児島
村松 2—0 伊東
上田 2—0 梅津
豊田 2—1 原田
菊池 2—0 横尾

▽4回戦

松野 2—0 加藤
北村 2—0 横尾
豊田 2—0 田坂

▽準々決勝

松野 2
15 15
6 8
0 上田

村松 2
15 15
12 3
0 伊東

松浦 2
15 9 15 11
5 15 11
1 北村

豊田 2
15 15
3 4
0 羽田

松野 2
15 15
5 8
0 村松

松浦 2
15 15
12 7
0 豊田

▽準決勝

松浦 2
18 15
16 7
0 松野

▽決勝

寺島紀己（足羽）2—0 小野寺恵美子（水沢農）
増子博美（上尾）2—0 佐野仁美
赤井恵美子（滋賀女）2—1 藤中修子（岩陽）
渡辺智子（秋田経大）2—1 甲斐千佳（宮崎商）
森 久子（富士見丘）2—0 野津利江（松江第一）
日向美幸（下館第二）2—0 広瀬正子（鶴鳴女）
石川昭子（市邨学園）2—0 小林千鶴（伊那弥生丘）

◆女子シングルス

▽1回戦

大形和美（富岡東）2—0 長岡聖美（福山暁星女）
川上善子（北嵯峨）2—0 中尾友江（市立出水商）
佐々木あい子（甲府商）2—1 斉藤奈美（若松女）
香月みどり（佐賀女）2—0 小林万里（奈良一条）
内田純子（前橋東商）2—1 星 和枝（聖ウルスラ）
永井明美（高松中央）2—0 中山美里（松阪）
谷沢信子（園田学園）2—0 永山千枝美（南部商）
西谷千賀子（金沢向陽）2—0 工藤枝里（昭和学院）
成瀬由美（御坊商工）2—1 上原ゆかり（福岡女）
加藤洋子（北星学園）2—0 菅原真弓（米子西）
富田令子（吉原）2—0 慶田城のり子（那覇）
平井たまみ（山城）2—0 森田麻友美（木更津東）
遠藤真弓（磐城女）2—0 川上さゆり（諏訪二葉）
北崎百合子（鉾田第一）2—0 山崎邦恵（新宮）
大山三枝子（中種子）2—0 大川佳子（弓削）
角田百合子（渋川女）2—0 国岡真理（鈴峰女）
酒井祐理子（砂川南）2—1 奥村和恵（足羽）

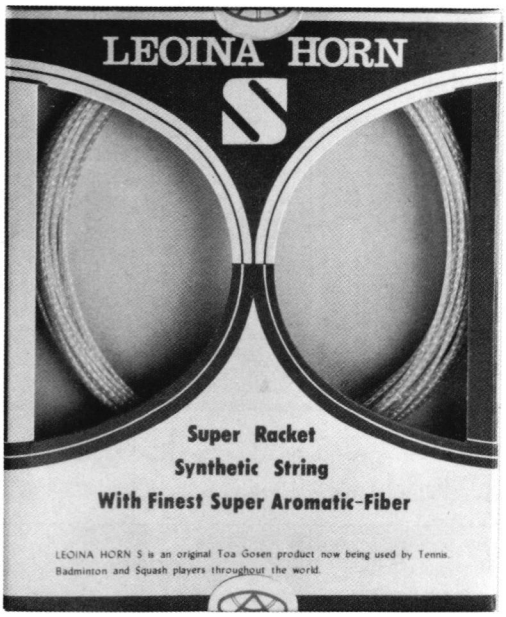
宮地貴子（佐賀女）2—0 梅原砂知（宮城県工）
清水恵子（湘南）2—1 阿部茂子（園田学園）
北代美帆（土佐女）2—0 渡部真由美（八幡大附）
山田明美（春日部女）2—0 宇夫恵子（遠野）
笠井早苗（岩陽）2—0 山口徳子（富島）
宮本美津子（昭和女）2—0 寺島めぐみ（愛国）
野田 香（岐阜女商）2—1 長谷川聡子（秋田経大）
浜口孝子（鶴鳴女）2—0 石原真由美（甲府商）
中本光美（奈良一条）2—0 森山紀子（出雲商）
喜多広美（金沢向陽）2—0 荘司純子（新庄南）

▽2回戦

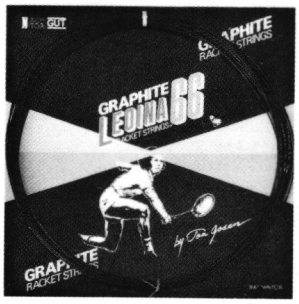
陣内貴美子（熊本中央女）2—0 寺島
増 子 2—1 赤井
大谷鶴美（高岡女）2—0 渡辺
山本祐子（土佐女）2—1 森
松田太嘉子（四条畷）2—0 日向
高橋真奈美（砂川南）2—0 石川
和田千尋（日大鶴丘）2—0 大形



世界のトーアが贈る
バドミントンガットシリーズ



レオイナ　ホーン
LEOINA HORN S



グラファイト　レオイナ
GRAPHITE LEOINA 66



レオイナ　シープ
LEOINA SHEEP 66



トーア　ストリングス
TOA-STRINGS SSW



トーア　ストリングス
TOA-STRINGS SSW

東亜ストリング株式会社

〒651　神戸市中央区八雲通３－１－24

☎078(232)1991㈹

ずらり、4店勢揃い。

渋谷店

760㎡（230坪）の広々とした店内でゆったりショッピング。

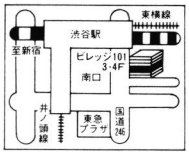


バドミントンコーナー



毎月曜日定休

東京都渋谷区桜ヶ丘町1-7（ビレッジ101ビル3・4階） TEL03-464-9251～2〒150
●営業時間/午前10時～午後7時30分
●日曜・祭日は午後7時まで

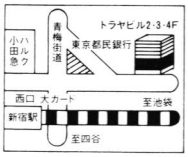


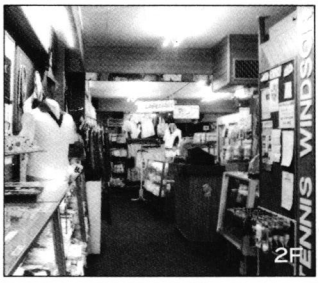
新宿店

落ち着いた雰囲気でお買いもの。各階それぞれの楽しさがいっぱい。

毎月曜日定休

東京都新宿区西新宿7-10-20（トラヤビル2・3・4階） TEL03-363-6848〒160
●営業時間/午前10時～午後7時30分
●日曜・祭日は午後7時まで







バドミントン・フロア

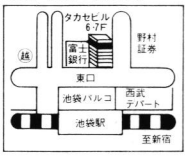


池袋店

つぶ揃いのテニス、バドミントン用品が店内にあふれんばかり。

毎月曜日定休

東京都豊島区東池袋1-1-4（タカセビル6・7階） TEL03-989-0401〒170
●営業時間/午前10時～午後7時30分
●日曜・祭日は午後7時まで



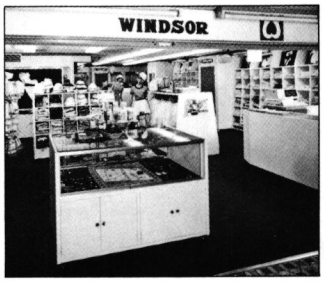




横浜店

ラケット、ウェア、シューズ……すべてに豊富な品揃え。選びやすい各コーナー。



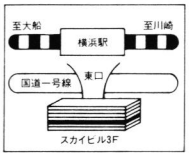


男性ウェア・コーナー



年中無休

横浜市西区高島町2-1 横浜駅東口（スカイビル3階）TEL045-453-1785〒220
●営業時間/午前10時～午後8時
●日曜・祭日も午後8時まで



日本最大のテニス・バド専門店
WINDSOR RACKET SHOP

ウインザー ラケットショップ。

30 YEARS
ラケットスポーツとともに30年

独自の特殊構造が光る。ゴーセンガット群。
まさに科学が生命を与えた生きているガットだ。

ザ・サイボーグガット。



ゴーセンガットは常に進歩を続けています。その先進の技術を余すところなく発揮しているのが、画期的な高性能繊維高分子ブレンド素材ベースのブレンドタイプ＆ミクロタイプ。そして、素材特性を生かし、ガットに生命を与えているのがゴーセン独自の特殊構造です。たとえば両端を密封した特殊油入り中空糸。封じ込めた特殊油は気温や乾湿の変化に敏感に反応して、ガットのテンションや反発力、弾性を一定に保ち、常に爽快な打球感を維持する役目をはたします。これはまさに科学が生命を与えた、生きているガット。ザ・サイボーグガットと呼ぶゆえんです。



ウインテックス・ブレンド
(10m・ゲージ0.75mm)
高性能繊維高分子ブレンド(特許出願中)／中空・特殊油入り(特許)／カーボン入り(特許)
1900BL ¥1,000



ウインテックス
(10m・ゲージ0.78mm)
超強力糸／中空・特殊油入り(特許)
1900 ¥900



ハイ・シープ・ミクロ
トーナメントタイプ
(10m・ゲージ0.70mm)
高性能繊維高分子ブレンド(特許出願中)／超超極細ゲージ
1060MC ¥600

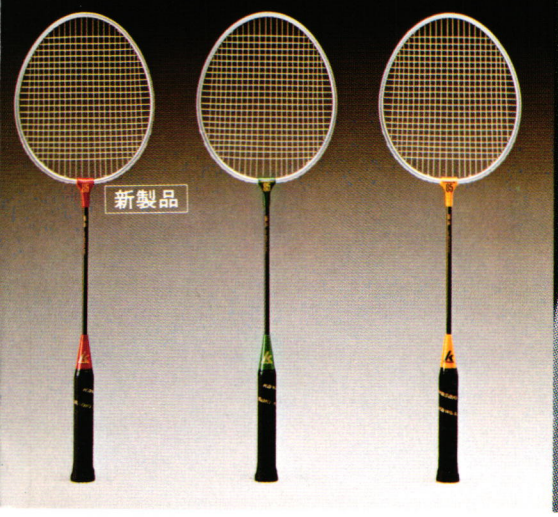
ラケットスポーツで世界をむすぶ
GOSEN

株式会社 ゴーセン
本　　社 ● 〒540 大阪市東区豊後町4 ☎ (06)942-5816㈹
東京支店 ● 〒111 東京都台東区蔵前4-14-2 ☎ (03)862-6576㈹
福岡営業所 ● 〒810 福岡市中央区薬院1-4-8 ☎ (092)712-5247㈹
北陸営業所 ● 〒921 石川県金沢市横川7-22 ☎ (0762)47-0200㈹

カワサキラケット株式会社

バーバラ サットン（イングランド）
Barbara Sutton
ユーバー杯代表選手

世界をうならせる。







ベラワティ ウィハルジョ（インドネシア）

Verawati Wiharyo

1980年第2回世界選手権女子シングルス優勝

トマス杯代表選手

しなやかなパワーが



独特のグラファイトシャフトは、復元力を限りなく高め、スピードの限界に挑むプレーに適確に応えます。シャフトが強化されて、しかも軽さを徹底的に追求。カラーも鮮やかなRed, Green, Yellowの3色。今、エイトファイブは日本を越えて世界のトッププレーヤーの期待に応えます。

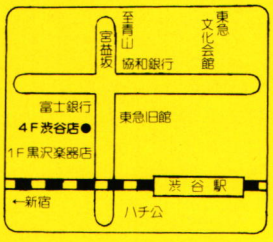
B-85
エイトファイブ

素材：グラファイトシャフト/高力アルミ合金フレーム　カラー：レッド/グリーン/イエロー（ケース付）　フレーム価格：9,500円

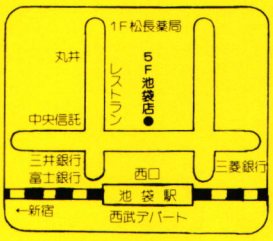
Nice Day with Racket

kawasaki

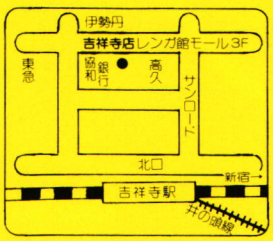
本　　社：〒130東京都墨田区両国1-10-6 TEL(03)633-7211(大代)
大阪支店：〒550大阪市西区阿波座1-10-6 TEL(06)533-0521(代表)



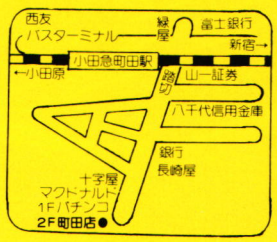
●渋谷店 バドミントン・プロショップ
☎03-400-7390



●池袋店 バドミントン・プロショップ
☎03-988-0215



●吉祥寺店 バドミントン・プロショップ
☎0422-21-7890



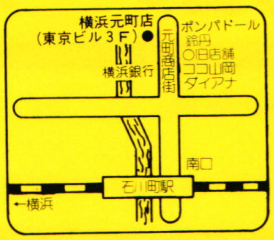
●町田店 バドミントン・プロショップ
☎0427-28-6050

ボクも狙うぞ 全国制覇！

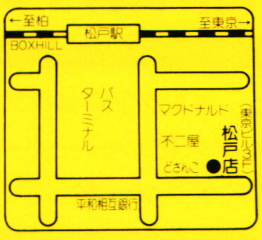
七番目の"松戸店"オープン
ズラリ揃った "七人の侍"
"エイトマン"出現の地は？

ラケットショップ元町®

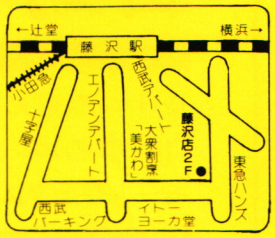
ラケットショップ元町®



●横浜店
テニス・バドミントン
☎045-651-6622
045-651-6621
045-662-7918
045-662-7920
045-662-7937



●松戸店
バドミントン・プロショップ
☎0473-64-6284



●藤沢店
テニス・バドミントン
☎0466-26-2552

君は厳しさに
たえられるか

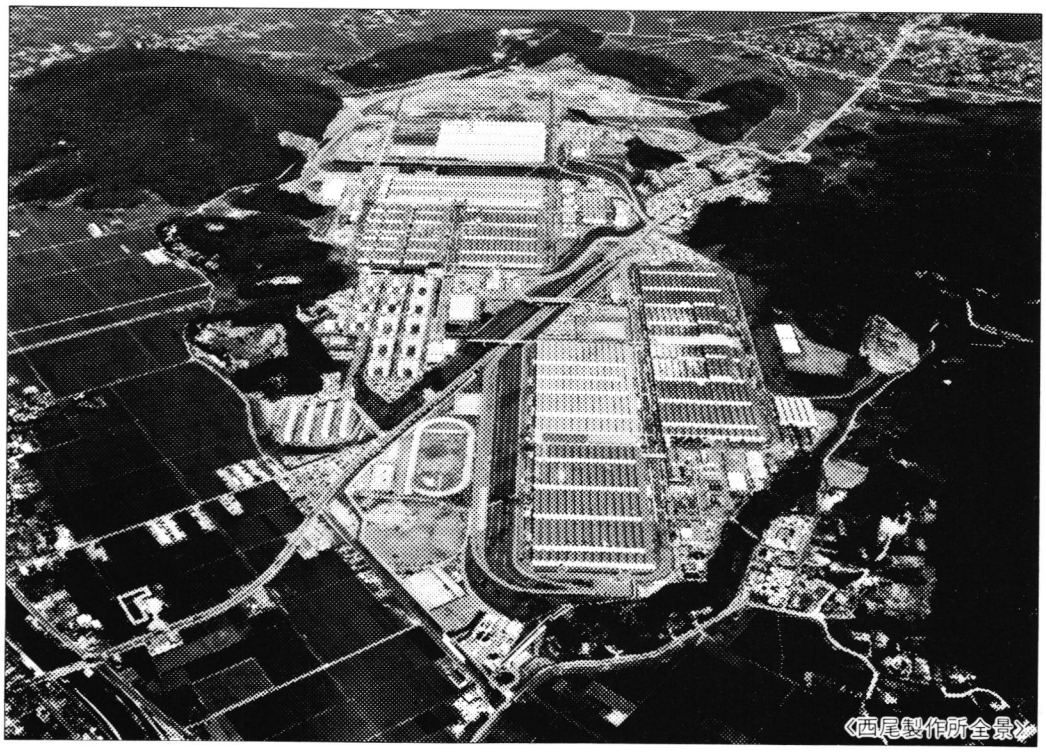
正社員若干名募集



®

自動車部品の総合メーカー

長年つみ重ねてきた、エレクトロニクスの技術を駆使して
自動車のエレクトロニクス化――――――
モートロニクスを進めるデンソー!!


〈西尾製作所全景〉

《営業品目》

- ●スターター
- ●オルタネーター
- ●ダイナモ
- ●レギュレーター
- ●イグニッションコイル
- ●ディストリビューター
- ●マグネトー
- ●ホーン
- ●ワイパー
- ●ウインドウォッシャー
- ●各種電子制御装置
- ●排気ガス浄化装置
- ●カーエアコン
- ●カークーラー
- ●カーヒーター
- ●燃料噴射ポンプ
- ●各種メーター
- ●ラジエーター
- ●スパークプラグ
- ●フィルター

日本電装株式会社

本社／愛知県刈谷市昭和町1－1　（〒448）　TEL 刈谷(0566)22－3311

小池かおり 2—0 川上
（千葉学園）
竹原桂子 2—0 佐々木
（山陽女）
本田佳代子 2—0 香月
（新潟青陵）
内田 2—0 佐名美幸
（昭和女）
永井 2—0 熊沢加代子
（横浜立野）
谷沢 2—1 田中美千代
（岐阜女商）
西谷 2—0 秋山智子
（鶴岡女）
森高紀子 2—0 成瀬
（西条農）
平間真由美 2—0 加藤
（小山城南）
田向和子 2—0 富田
（高岡女）
平井 2—0 菅原千秋
（米子西）
遠藤 2—0 原田恵
（日和佐）
北崎 2—1 森山弘美
（熊本信愛）
橋本真由美 2—0 大山
（千葉学園）
角田 2—0 永井恵子
（松阪）
新木千織 2—0 酒井
（四条畷）
屋代利子 2—0 宮地
（横浜女商）

山内美子 2—0 清水
（新潟青陵）
北代 2—1 笠原万友美
（札幌静修）
山田 2—0 光崎祐子
（愛知淑徳）
平山美恵子 2—0 笠井
（比叡山）
宮本 2—0 合田なおみ
（山陽女）
野田 2—1 猪瀬美津枝
（小山城南）
浜口 2—0 中本光美
（奈良一条）
山内佳子 2—0 喜多
（高松中央）

▽3回戦

陣内 2—0 増子
大谷 2—0 山本
松田 2—0 高橋
小池 2—0 和田
本田 2—0 竹原
永井 2—0 内田
西谷 2—0 谷沢
平間 2—0 森高
田向 2—0 平井
遠藤 2—1 北崎
橋本 2—0 角田
屋代 2—1 新木
山内 2—0 北代
平山 2—0 山田
宮本 2—1 野田
山内 2—0 浜口

▽4回戦

陣内 2—0 大谷
松田 2—0 小池
永井 2—1 本田
平間 2—0 西谷
田向 2—0 遠藤
橋本 2—1 屋代
山内 2—0 平山
山内 2—0 宮本

▽準々決勝

陣内 2 (11—6) 0 松田
永井 2 (11—4, 7—11) 1 平間
田向 2 (11—3) 0 橋本
山内(佳) 2 (11—3, 9—11, 4—11) 1 山内(美)
陣内 2 (11—0, 11—3) 0 永井
山内 2 (11—5, 6—11, 8—11) 1 田向

▽準決勝

陣内 2 (11—3) 0 山内

▽決勝

陣内 2 (11—3, 5—11) 0 山内

◆男子ダブルス

▽1回戦

山本・赤根 2—1 井原・加藤
（近大福山）　（今治北）

笠島・佐藤 2—1 上原・杉山
（宮崎工）　（伊東）
青木・直井 2—1 萩原・鈴木
（中央学院）　（横手工）
嶺・田中 2—0 中村・関
（格星）　（立野）
横尾・江原 2—0 玉井・桜井
（石岡第一）　（甲南）
山本・吉松 2—1 藤丸・角
（高知小津）　（山門）
宮本・羽田 2—0 菅野・相沢
（金沢市工）　（仙台第一）
青柳・入江 2—0 花田・山田
（真岡工）　（瓊浦）
阿部・菊池 2—0 森下・鈴木
（遠野）　（桐生市商）
奥野・園部 2—0 佐藤・野村
（枚方）　（岐阜工）
小関・峰田 2—0 桃原・上原
（山形東）　（糸満）
北野・吉崎 2—0 清水・前山
（富山商）　（日和佐）
直野・平林 2—0 徳島・中本
（正強）　（境港工）
宗形・平田 2—0 江口・松尾
（日大鶴ヶ丘）　（佐賀工）
児玉・土江 2—1 松本・湯本
（出雲商）　（中野）
上床・平野 2—0 奈良・井口
（辿子開成）　（松山北）
山腰・鈴木 2—1 保科・矢田
（旭野）　（出雲農林）
鈴木・高木 2—0 本田ペ諸田
（若松）　（佐賀工）

辻・井上 2—0 河野・十河
（敦賀）　（高松西）
大割・新井 2—1 安藤・田部
（上尾）　（柏原）
原沢・城所 2—0 玉井治・玉井達
（横浜立野）　（新宮）
小枝・高橋 2—0 榎本・村上
（東奥義塾）　（北九州）
江原・渡辺 2—0 山本・土井
（仙台商）　（徳島市立）
土屋・宮 2—0 練尾・日谷
（日川）　（水島工）
大江・森山 2—0 森・坂本
（京都商）　（岐阜工）
山口・小柳 2—0 黒木・川崎
（北越商）　（宮崎工）
佐々木・芳賀 2—0 工藤・及川
（千厩）　（帯広柏葉）
手塚・木村 2—1 真・吉野
（作新学院）　（富士見北）
根間・富里 2—0 星加・田坂
（那覇）　（西条農）
大輪・武藤 2—0 森下・武居
（土浦第一）　（木曽西）
浅井・橋本 2—0 水元・南竹
（福山市福山）　（鹿児島商）
佐藤・松本 月岡・鳥羽
（尼崎市尼崎）　（会津工）

▽2回戦

松野・宮 2—0 山本・赤根
（日川）
山田・山岸 2—0 笠島・佐藤
（会津工）

丸山晃丸山明　2—0　青木・直井
（三条商）　（中央学院）
福田・伊藤　2—0　峰　・田中
（九州学院）
駒井・池田　2—1　横尾・江原
（池田西）
片岡・佐藤　2—0　山本・吉松
（水島工）
宮本・羽田　2—1　小原・杉本
（比叡山）
梅津・中西　2—0　青柳・入江
（伊勢工）
前田・斉藤　2—0　阿部・菊池
（足羽）
末長・高橋　2—1　奥野・園部
（柳井工）
大浦・中村　2—0　小関・峰田
（越谷南）
児島智・児島浩　2—1　北野・吉崎
（新宮）
直野・平林　2—0　大西・上原
（高松西）
宗形・平田　2—1　富田・中村
（名古屋電気）
児玉・土江　2—0　田中・鮫島
（鹿児島）
佐々木・葛西　2—0　上床・平野
（東奥義塾）
片岡・辻田　2—0　山腰・鈴木
（比叡山）
鈴木・高木　2—0　松岡・島田
（札幌第一）
森永・尾園　2—0　辻　・井上
（柳井工）

早坂・鈴木　2—1　大割・新井
（山形市商）
東　・堀内　2—1　原沢・城所
（伊勢工）
上田・中島　2—1　小枝・高橋
（高岡第一）
江原・渡辺　2—0　佐藤・加地
（日大鶴ヶ丘）
土屋・宮　2—0　吉弘・東
（日川）　（熊本商大附）
奈良・豊田　2—0　大江・森山
（日本大学）
溝渕・奥村　2—0　山口・小柳
（土佐）
佐々木・芳賀　2—0　一瀬・松尾
（瓊浦）
池渕・船越　2—0　手塚・木村
（境港工）
菊池・中谷　2—0　根間・冨里
（奈良一条）
樋場・高橋　2—0　大輪・武藤
（横手工）
大沢・大出　2—0　浅井・橋本
（桐生市商）
羽田・村松　2—0　佐藤・松本
（金沢市工）

▽3回戦

松野・宮　2—0　山田・山岸
副田・伊東　2—0　丸山晃丸山明
駒井・池田　2—0　片岡・佐藤
宮本・羽田　2—0　梅津・中西
前田・斉藤　2—0　末長・高橋
児島智・児島浩　2—0　大浦・中村
直野・平林　2—1　宗形・平田

佐々木・葛西　2—0　児玉・土江
片岡・辻田　2—0　鈴木・高木
早坂・鈴木　2—0　森永・尾園
上田・中島　2—0　東　・堀内
土屋・宮　2—0　江原・渡辺
奈良・豊田　2—0　溝渕・奥村
佐々木・芳賀　2—0　池渕・船越
菊池・中谷　2—0　樋場・高橋
羽田・村松　2—0　大沢・大出

▽4回戦

松野・宮　2—0　福田・伊藤
宮本・羽田　2—0　駒井・池田
児島智・児島浩　2—1　前田・斉藤
佐々木・葛西　2—0　直野・平林
片岡・辻田　2—0　早坂・鈴木
上田・中島　2—0　土屋・宮
奈良・豊田　2—0　佐々木・芳賀
羽田・村松　2—0　菊池・中谷

▽準々決勝

松野・宮　2（15—2　15—10）0　宮本・羽田
佐々木・葛西　2（15—5　15—5）0　児島智・児島浩
片岡・辻田　2（15—9　15—11）0　上田・中島
羽田・村松　2（15—12　17—16）0　奈良・豊田

▽準決勝

松野・宮　2（15—11　15—5）0　佐々木・葛西
羽田・村松　2（17—14　15—10　15—10）0　片岡・辻田

▽決勝

松野・宮　2（15—10　15—10）0　羽田・村松

◆女子ダブルス

▽1回戦

荘司・伊藤　2—0　古賀・山本
（新庄南）　（境）
萩原・山下　2—0　甲斐・神田
（甲府湯田）　（宮崎南）
三輪・高瀬　2—0　大川・水野
（華頂女子）　（弓削）
大橋・藤田　2—0　鈴木・出島
（奈良一条）　（吉原）
北村・中島　2—0　福永・原口
（新島学園）　（鹿児島）
岩村・水野　2—0　唐川・後藤
（諏訪二葉）　（自彊）
永井・山川　2—0　加藤・高瀬
（高松中央）　（昭和女）
高橋・木津　2—1　沢田・近藤
（砂川南）　（川口女）
遠藤・田村　2—0　豊島・上原
（宮城第二女）　（豊見城）
平岡・則藤　2—1　松崎・高橋
（耐久）　（隠岐）
宇夫・前川　2—0　横山・稲葉
（遠野）　（岐阜女商）
太田・割出　2—1　泰地・大形
（日大鶴ヶ丘）　（富岡東）
白川・坂田　2—0　渡辺・古賀
（福井工大福井）　（八幡大附）
渡辺・古川　2—0　石丸・宮地
（秋田経大附）　（佐賀女）
大谷・田向　2—0　日向・鈴木
（高岡女）　（下館第二）

川口・片平　2—0　五十嵐・小椋
（鶴鳴女）　（若松女）
西村・　森　2—0　山岸・工藤
（四日市）　（昭和学院）
佐藤・外川　2—0　野田・　森
（盛岡市立）　（佐賀女）
渡部・谷内　2—0　平上・中島
（東海商）　（木下学園祇園）
三浦・古木2—0菅原千・菅原真
（国学館）　（米子西）
北崎・小竹　2—0　坂本・　南
（鉾田第二）　（宮崎商）
梶塚・菅原　2—0　藤中・友兼
（若松）　（岩陽）
野路・奥村　2—0　永井・西田
（足羽）　（松阪）
宮本・佐名　2—0　成瀬・田端
（昭和女）　（御坊商工）
片瀬・堀内　2—0　宮崎・井上
（松陽）　（土佐女）
谷口・小泉　2—0　乾　・山下
（園田学園）　（藤花尾山台）
佐野・富田　2—0　佐々木・石原
（吉原）　（甲府商）
星　・遊佐　2—0　小谷・岩津
（聖ウルスラ）　（八幡大附）
大熊・石橋　2—0　川上・中沢
（巣鴨女）　（諏訪二葉）
牧野・安原　2—1　中渡瀬・森山
（朱雀）　（知覧）
内田・今井　2—0　源　・吉田
（前橋東商）　（松江商）
松井・本田　2—1　小飼・加藤
（新潟青陵）　（北星学園女）

木村・北山 2—0 新垣・仲里
（黒石）　（南部商）
石川・福島 2—0 中田・辻
（行田女）　（弓削）

▽2回戦

山内・石崎 2—0 荘司・伊藤
（新潟青陵）
萩原・山下 2—0 三輪・高瀬
大橋・藤田 2—1 長谷・杉本
（金沢二水）
北村・中島 2—0 合田・木下
（山陽女）
小池・橋本 2—0 岩村・水野
（千葉学園）
横山・森 2—1 永井・山川
（富士見丘）
光崎・佐藤 2—0 高橋・木津
（愛知淑徳）
平山・萬宮 2—0 遠藤・田村
（比叡山）
森山・三由 2—0 平岡・則藤
（信愛女学院）
屋代・米田 2—0 宇夫・前川
（横浜女商）
久世・押切 2—0 太田・割出
（四條畷学園）
白川・坂田 2—0 笠原・林原
（札幌静修）
三沢・鈴木 2—0 渡辺・古川
（小山城南）
大谷・田向 2—1 北代・大塚
（土佐女）
川口・片平 2—0 笠井・岩尾
（岩陽）
阿部正・阿部茂 2—0 西村・森
（園田学園）
平間・猪瀬 2—0 佐藤・外川
（小山城南）
赤井・磯野 2—0 渡部・谷内
（滋賀女）
三浦・古木 2—0 原田・大山
（日和佐）
原田・田向 2—0 北崎・小竹
（高岡女）
陣内・井村 2—0 梶塚・菅原
（熊本中央女）
小林・中本 2—0 野路・奥村
（奈良一条）
宮本・佐名 2—0 中鉢・渡辺
（山形城北女）
瀬川・酒井 2—0 片瀬・堀内
（砂川南）
大竹・熊沢 2—1 谷口・小泉
（横浜立野）
広瀬・浜口 2—1 佐野・富田
（鶴鳴女）
星・遊佐 2—0 岡・原田
（山陽女）
山内・佃 2—0 大熊・石橋
（高松中央）
遠藤・根本 2—0 牧野・安原
（磐城女）
田中・野田 2—1 内田・今井
（岐阜女商）
松井・本田 2—0 木村・北山
（黒石）
新木・松田 2—0 石川・福島
（四條畷学園）

▽3回戦

山内・石崎 2—0 萩原・山下
北村・中島 2—1 大橋・藤田
小池・橋本 2—0 横山・森
平山・萬宮 2—0 光崎・佐藤
森山・三由 2—0 屋代・米田
久世・押切 2—0 白川・坂田
大谷・田向 2—1 三沢・鈴木
阿部正・阿部茂 2—0 川口・片平
平間・猪瀬 2—0 赤井・磯野
原田・田向 2—0 三浦・古木
陣内・井村 2—0 小林・中本
瀬川・酒井 2—0 宮本・佐名
大竹・熊沢 2—1 広瀬・浜口
山内・佃 2—0 星・遊佐
田中・野田 2—0 遠藤・根本
本田・松田 2—0 松井・本田

▽4回戦

山内・石崎 2—0 北村・中島
平山・萬宮 2—1 小池・橋本
森山・三由 2—0 久世・押切
阿部正・阿部茂 2—0 大谷・田向
原田・田向 2—1 平間・猪瀬
陣内・井村 2—0 瀬川・酒井
山内・佃 2—0 大竹・熊沢
新木・松田 2—0 田中・野田

▽準々決勝

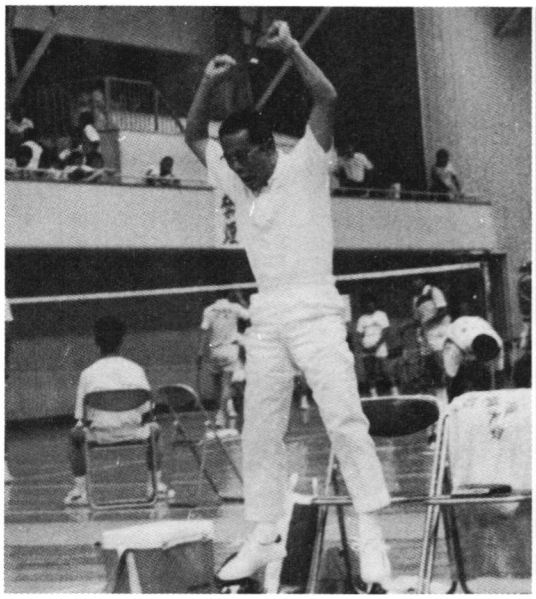
山内 2（15—10, 15—11）0 原田 井村
石崎 2（15—6, 15—4）0 萬宮 平山
森山 2（15—6, 15—5）0 阿部正 三由
陣内 2（15—10, 15—6）0 田向 阿部茂

▽準決勝

山内 2（15—8, 15—13）0 新木 松田
石崎 2（15—8, 9—15, 15—3）1 三由 森山

▽決勝

陣内 井村 2（18—14, 15—10）0 石崎 山内
山内 2（15—8, 15—9）0 佃 山内





監督も思わず力が入ります、谷口監督（奈良正強）阿部監督（上尾）

小島一平の ガッツ・オピニオン



もう一度、2複3単へ

思えば、私がインターハイに初出場したのが第12回大会（弘前市）。時の流れは早いもので二十年前である。

シャトルは陸鳥、ラケットはウッド、ウェアはTシャツというか下着に毛の生えたようなと思っていただければ……、中にはソックスが黒という人も居り、驚いたりしたことが懐かしく記憶に残っている。

当時は、試合形式が現在と異なり、2複3単でどちらにも兼ねて出場でき、強力なエースを2名擁して居れば優勝も可能であった。それこそ、団体、個人戦にと5日間、試合が連続してあるのだから大変なスタミナと精神力が必要だったことはいうまでもない。

体力、基本を徹底的に

猛暑の中、熱戦に次ぐ熱戦が繰り広げられたが、技術的な面に関しては進歩していると認めざるを得ない。

しかし、それはあくまで定位置でのショットであって、動きながらのショットは体を十分に使わないで小手先のプレーが多く、ネットへの突っ込みは迫力に欠けていた。特に気がついたのは、腰が引けていること。足腰の弱さのために、どうしても後へのリターンが怖いのであろう。これは、楽なプレーに走り過ぎる傾向があることを意味している。

然るに、まず基礎体力の養成が先決であって、それから技術の向上を計るのが順序、どうも逆行しているのではないかと思われてならない。

現在は、2複1単で兼ねて出られない形式が採られている訳だが、何というか興味が半減してならない。何故かというと、準決勝、決勝でさえもオーダーの関係上、悪くいえば捨て駒の選手とエースが対戦することが多く、ワンサイドゲームになってしまうケースが非常に多く見受けられるからだ。

プレーする側も、観戦する側も何か釈然としない気持にならざるを得ないような気がしてならない。

議論の余地を残していると思う。多くの関係者とこの件に関し話し合うと圧倒的に元に戻した方が良いという意見、今一度、高体連の役員各位に再考をお願いしたい次第である。

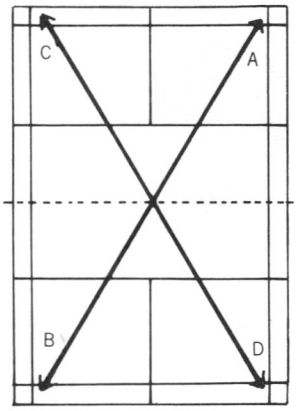
自己よりもレベルの上の者（実力、経験、伝統）を破るには、体力で制するしかない。相手の体力が10とすれば、20もしくは30の体力をつけるぐらいの気持がなければ勝利は望めない。

というのも、スタミナが消耗すればするほどミスが多くなるのがバドミントン競技であるからである。

先にも述べたが、楽なプレーに走る傾向は随所に見られ、フォアで回り込めるストロークでも簡単にバックハンドを使う選手が数多く見られた。

シングルスにおいて、クリアーの切り返しと通常呼んでいるが、左記の図のごとくAよりドリブンクリアーで仰がされた場合、Bは

同じコースにドリブンで切り返す。このストロークがあまり見られない。C、Dも同じく。



このストロークは私も頻繁に使ったが、相手も苦しいが自分も苦しい、非常に厳しいストロークであり、是非とも基本練習に取り入れて頂きたい。

確実にこのストロークをこなせる選手は、相当基礎ができているといって過言ではない。

単調な基本練習に全精力を傾け集中できる者は、適確な目標を持ち取り組んでいるといえ、そうでない者は惰性でやっているだけである。

最近の選手は、どうも個性が無くなったという話をよく耳にするが、女子に関しては、ジュニアからの指導方針が徹底しているのか、次々と時代を背負う選手が出てくるのは、全国の指導者に敬服せざるを得ない。

一般的には、ラケットの性能が良くなり、それによって防御（ディフェンス）の進歩が特に目覚ましい。しかし良く観ると、スマッシュなどを大きくリターンするテクニックは上達したが、シャトルの勢いを殺してネットすれすれに短くリターンする技術は未熟であった。

それに加え、ネットから相手を押し込み、仰がせるストロークはあまり見られず、簡単に手首だけでショットするためシャトルが途中で死に、有効なショットになっていない。これも、ネットへの突っ込みができないという、足腰の弱さを曝け出した結果だ。

攻撃（オフェンス）は、基礎体力の欠如により迫力を感じられる選手が少なかったように思う。体勢が崩れていても、上体だけで決めにかかるぐらいの上半身のパワーが欲しいものだ。

要するに、荒削りの選手が少なくなり、オールラウンドといってしまえば聞こえは良いが、まとまり過ぎて果たして将来はと考えると、魅力ある選手は少なかったように思う。

スマッシュが目茶苦茶に速い、とことん粘る、ネットプレーが抜群だ、レシーブに攻撃性を持っている。ファイティング・スピリットが旺盛である、といった具合に何か一つ卓越したものが欲しいと思う。

ガッツポーズは無意味

バドミントンはネット越しのスポーツであり、ボクシング、柔道といった格闘技とは異なるが、基本的には白黒をつける意味において同様であり、ルールの上での喧嘩であり、まず気力を充実させねばならない。

しかし、燃えることは結構だが、自分のショットが決まったり相手がミスをする度に、両手を挙げ歓喜のポーズでコート狭しと走り回るのは、気持は解らないではないが、スタミナの消耗にもなるし、精神の集中を欠くことにもなりかねないので止めるべきではないだろうか。

もうこれで勝負が決まったという感じで、いちいち喜んだりガッカリしていたのでは観ている方も何かシラケる。

内に秘めた闘志で、何事にも動揺しない精神力さえあれば、ゲームの途中で一喜一憂する必要はないし、第一にゲームが終了した時点で素直に感情を表わした方がより感動的ではなかろうか。

要するに、相手を威嚇するというのは自信が無いからであって、自信があれば不要のものである。

バドミントンは体力的にも厳しい、その上、精神的にも非常に繊細な面が要求される競技であるから、指導者の方々に是非徹底した指導をお願いしたい。

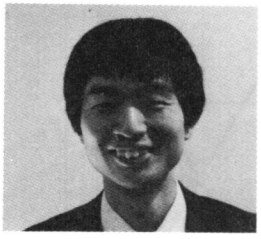
思いつくままに書いてしまったが、インターハイへ出場し好成績を収めた選手、惜しくも目標を達成できなかった選手、そして予選で敗れた選手、私もバドミントンファンの一人として前途は多難であると思うが、好きなことを長年辛抱して続けることの素晴らしさ、その過程の素晴らしさをこれからも経験して欲しい。

今後の、皆さんの発展を期待して止みません。

同時に、全国の指導者の皆さんには、ますます素晴らしい選手の育成にご尽力くださることを節に願って居ります。

（筆者はラケットショップ元町勤務）

テクニックを盗め



ダブルス講座　飯野佳孝

ハーフ球の処理

できるだけ前衛が処理。後衛の場合は角度を第一に考える。

ダブルスで一番難かしいものひとつにハーフ球（ネットより高い位置）の処理がある。

上手く処理すれば決定打につながる重要な意味を持ち、反面ミスも誘発され易く、切り返される要素も十分にある紙一重のストローク。

基本的には、前衛が処理できればベターである。

相手にしてみれば、前衛を抜いて後衛に不利な体勢でショットさせようとする狙いなのだから、その前に前衛がカットできれば意図を断つことになる。

前衛が処理する場合、気をつけなければならないのは、ネットへ切ってはいけないということ。

相手は攻撃のためのハーフであり、上級者になればなるほどかならず一人が前へ出て来て、ネット前で待ち構えていることが多い。

ネットへのストロークは、相手の思うツボである。

これは、後衛が処理する場合でも同じであるから、よく頭に入れておいて欲しい。

前衛が処理する場合は、相手の前衛に手を出させるようなハーフ球、つまり誘い球を打ってそのカウンターを狙うのが得策だ。

この場合、前衛に叩かれないことと、前衛が手を出さなくても後衛に叩かれないことへの配慮が必要なことはいうまでもない。

一度、誘い球に手を出させ、カウンターで叩いておけば、それからの展開が楽になる。

ハーフ球を前衛が処理できれば、それだけでもゲーム展開は有利になるのだが、前衛が抜かれてしまうこともしばしばある。

この場合、後衛は前述したようにネットへ落としてはならない。

では、何故ネットへのストロークがいけないのか。

それは、巧みなプレーヤーであればあるほどネットへ逃げてくるのを待っているものであるし、たとえきれいにネット際へ落としても、かならず相手は高いロビングで逃げてしまうからだ。

つまり、ハーフ球を処理できるということは、既に有利な立場にいることであり、より相手を窮地に追い込むチャンスなのである。

それをネットへショットしてしまうのは、相手の危機を脱出させるばかりでなく、自分達の攻撃のリズムを断ち切ってしまうようなもの。

攻撃の流れ、ラリーの連続性を自ら放棄することに等しい自殺行為だ。

ロビングで高く逃げられてしまっては、相手のガードが固くなるばかりか、自分達の攻めもゼロからやり直しの状態になってしまう。

緩くてもよいから、角度をつけて打ち込むことが大切。

強打できればそれに越したことはないが、強く打つことに神経をとられ角度を忘れてしまうと、ネットへひっかけたり、バックパウンダリーラインをオーバーしてしまうことになる。

あくまで、ネットから浮かないように角度をつけて打ち込むことが肝要。

この場合、コースもあまり考える必要はなく、角度のことのみに神経を集中してもらいたい。

ハーフ球は、それ自体が決定打になるという性質のものではないから、とかく見落としがちな地味なストロークだが、ゲーム展開を優位に保つためのキーポイントといって過言ではない。

ダブルスにおける攻撃力というのは、一人一人のスマッシュ力といったものより、ラリーの連続性で相手を追い込んで行くことの積み重ねであり、またそれがダブルスの魅力でもあるわけだ。

（筆者は日本楽器勤務）



〈カット・長谷部憲和〉

チャンピオンをめざせ！

世界は日進月歩。日本も一丸となるべき



銭谷欽治

まず冒頭にお詫びをひと言。ふた月ほど連載を休んでしまい、読者の皆さんには大変失礼しました。

風邪をこじらせて体調を崩し、社会人大会にも出場できなくなるほどで〝風邪は万病のもと〟とはよくいったもの。

ようやく体調が整ったら、今度は海外遠征でアメリカへといった具合いで、ずい分ご無沙汰してしまいました。

さて今月は、その海外遠征の話と、帰国直後に見たインターハイの感想を述べてみたい。

久しぶりにアメリカで開催されたビッグイベント、ワールドゲームスは、中国のIBF加盟後初の出場が大々的に前宣伝され、渡米前から胸が躍る思いだった。

当然中国は、各種目とも制覇すべく第一線級を送り込んでくると思われ、日中交流とはひと味違った真剣勝負が期待された。

しかも、開催される国がアメリカというのも、私にとっては興味の的だった。

世界の経済大国アメリカが、バドミントンにどれほど関心を持っているか、これは将来のバドミントンの発展につながる問題として大いに注目するところである。

試合の方は、予想に違わぬ中国の強さであった。

ミックスダブルスを除く四種目を独占、それも1種目1人または1組の参加で見事に栄冠を射止てしまうのだから、恐れ入った強さというしかない。

男子シングルスは、あのリム・スイ・キンがM・F・ハンセンに準決勝で敗れてしまい、中国選手・陳昌杰との対決を見ることはできなかったが、陳昌杰のプレー、スマッシュ・アンド・ラッシュは素晴らしいものだった。

上がったら絶対といっていいほどスマッシュ、そしてネット前からはスピンの利いたヘアピン、相手の攻撃もよく粘り、まさによく打ちよく拾うエネルギッシュなもの。

陳はまだ22歳、中国では恐らく3番手か4番手にランクされるプレーヤーだろうが、ジョリー、プラカシュ、ハンセンと連破するあたりさすがという他はない。

男子ダブルスの孫志安、姚喜明組も力強いプレーだった。

コンビネーションや、ダブルスにおける細かいプレーはインドネシアペアに一歩譲るのは仕方ないとして、パワーとそれを持続するスタミナは完全に上回っていた。

第1ゲームより第2ゲーム、第2ゲームよりファイナルゲームと、試合が長引けば長引くほど威力を増すような印象を受けた。

男子を見る限りにおいては、ひと頃の超人的なスタープレーヤー、候加昌、湯仙虎に匹適するほどのショックを受けることはなかったが、これは中国のレベルが当時より低下しているためなのか、ナンバーワン・プレ

ーヤーでないためか、定かではない。

しかし、それにも増して中国以外の国々のレベルアップが明白な事実であることが、中国選手が予想以上に苦戦した最大の原因ではないだろうか。

プラカシュやハンセンが、インドネシア、中国選手と互角に戦ったのだ。

ヨーロッパのプレーヤーズ制度がもたらした効果が、早くも現れ始めたといっていいだろう。

女子は、現在の中国に立ち向えるのは、シングルスの黄善愛、ダブルスのペリー・ウェブスター組だけだった。

特に、黄善愛は内容的には張愛玲を押しまくっていた感があり、配球、試合のかけ引きにキャリアを積めば、打倒中国の一番手という気がする。

今回、一番残念だったのは、リム・スイ・キンの不振であった。私も2回戦で対戦したが、一時の爆発的なスマッシュが影をひそめ、軽くなったとでもいったらいいのか、威力が半減しているような気がした。

また、競技とは別に期待していた〝アメリカのバドミントンに対する関心度〟であるが、これは観衆が毎日三百人程度ということからも分るように、いま一つ盛り上がりに欠けるようであった。

世界のスポーツ界をリードするアメリカであるが故に、ある望みを抱いていたのだが……。

しかし、この大会がかつては女子世界一に輝いたアメリカ復興の引き金となることを、心から願うものである。

帰国すると、日本では若人の祭典インターハイが行なわれていた。

世界の頂点中国をはじめとするトッププレーヤーを目の当りにした直後だけに、その感慨もまた新たに見物することができた。

全体的に感想を述べると、男子は良くいえば高校生らしいのだが、バドミントンに対する執着心がないように感じられ、ためにひとつひとつのプレーに重みが感じられなかったというのが本音。

確かに、技術的にはラケットが軽くなったことでスピーディになり、バックハンドも巧みで小技は進歩しているのだが、何か物足りなさを感じるのだ。

ここ数年、バドミントン人口の低年齢化により高校生のレベルはアップしているのだが、だからといって大学生になると頭打ちの傾向が見られる。

余まりにも早くから、小さな枠の中へ押し込め、荒々しさや魅力を削り取っているのではないだろうか。

そして、選手自身の中にも枠を突き破って飛躍するほどの意欲に欠けるのではないだろうか。

それは、意欲を生む環境作りということにつながる。

僅かの期間に、ワールドゲームス、インターハイを肌で感じるとさまざまな思いが頭の中を駆け巡る。

世界は日進月歩している。

現在日本は何をしなければいけないのか。

バドミントン界がひとつになって考え、行動を起こさなければならない危機感をひしひしと感じるのだ。

（筆者はカワサキラケット勤務）

〈カット・長谷部憲和〉



ワールドゲームス サンタクララ

いよいよ〝中国時代〟へ突入

男女単複を独占

中国がIBF加盟後、初めての国際大会、ワールドゲームスが7月25日から4日間、アメリカのサンタクララで開催された。

初登場の中国の試合ぶりに関心が寄せられたが、噂に違わぬ強さを発揮、男女の単複を独占して関係者の度肝を抜き、いよいよ〝中国時代〟突入を思わせた。

▼男子シングルス1回戦

銭　谷（J）　2（15-15 / 15-4 / 2-0）　0　土　田（J）

ジョリー（E）　2（15-15 / 15-2 / 2-0）　0　土　田（J）

キナード（A）　2（17-14 / 7-15 / 17-14）　1　長谷川（J）

▼同2回戦

リム・スイ・キン　2（15-6 / 15-8 / 2-0）　0　銭　谷

▼同準々決勝

リム・スイ・キン　2（15-7 / 15-3 / 2-0）　0　ブンス（E）

M・F・ハンセン　2（15-4 / 15-10 / 2-0）　0　ハディヤント（IN）

陳昌杰（CH）　2（15-7 / 18-14 / 2-0）　0　ジョリー

プラカシュ（I）　2（15-3 / 15-5 / 2-0）　0　トライオン（C）

▼同準決勝

ハンセン　2（15-6 / 11-15 / 18-14 / 2-0）　1　リム・スイ・キン

陳昌杰　2（18-16 / 18-14 / 14-0）　0　プラカシュ

▼女子シングルス1回戦

東海林（J）　（不戦勝）　ヤングバーグ（C）

米　倉（J）　（不戦勝）　ギア（I）

▼同準々決勝

東海林　2（11-6 / 11-7 / 0）　0　ウェブスター（E）

コーペン（D）　2（11-3 / 11-3 / 0）　0　米　倉

▼同準決勝

黄善愛（K）　2（11-2 / 11-1 / 0）　0　東海林

張愛玲（CH）　2（11-1 / 11-4 / 0）　0　コーペン

▼同決勝

張愛玲　2（12-9 / 11-9 / 7-11）　1　黄善愛

▼男子ダブルス1回戦

クリスチャン、チャンドラ　2（15-12 / 15-6 / 0）　0　辻、長谷川（J）

（IN）

▼同準々決勝

カルトノ、ハリヤント（IN）　2（15-10 / 15-9 / 0）　0　ジョリー、バデリー（E）

孫志安、姚喜明（CH）　2（15-12 / 3-15 / 17-14）　1　クリスチャン、チャンドラ

キールス、トロム、カールソン（S）　2（15-10 / 15-12 / 0）　0　ブンス、トレジェット（E）

ジリランド、トラバース（SC）　2（15-6 / 15-6 / 0）　0　ハディル、サムソン（N）

▼同準決勝

孫志安、姚喜明　2（15-8 / 15-10 / 3-15）　1　カルトノ、ハリアント

キールス、トロム、カールソン　2（15-6 / 15-4 / 11-15）　1　劉、バッハウス（T・C）

ジリランド、トラバース　2（15-9 / 15-0 / 10-15）　1　キールス、トロム、カールソン

▼同決勝

孫志安、姚喜明　2（15-6 / 15-4 / 11-15）　1　キールス、トロム、カールソン

▼女子ダブルス

米　倉、イメルダ（J・IN）　2（15-11 / 15-11 / 13-1）　1　ブルマー、チャップマン（SW・E）

東海林、大　塚（J）　2（15-5 / 18-15 / 0）　1　黄善愛、金練子（K）

▼同準々決勝

黄善愛、金練子　2（15-4 / 14-18 / 15-4）　1　米　倉、イメルダ

東海林
大　塚　（不戦勝）

▼同準決勝

ペリー、
ウェブス
ター（E）

2	8	8	15
15	17	14	15
15	10	1	

黄善愛
金練子

張愛玲
劉　霞（CH）

2	15	15	4
15	5	4	
0			

東海林
大　塚

▼同決勝

張愛玲
劉　霞

2	15	11	15
15	4	1	
15	7		

ペリー、
ウェブス
ター

▼混合ダブルス準決勝

トレジェット、ペリー（E）

2	15	15	4
15	8	0	

ロード、コーペン（D）

スコブガード、
クリスチャン、
キールストロム、
ギルクス（SW・E）

2	15	8	
15	8	0	

イメルダ（IN）

▼同決勝

トレジェット、ペリー

キールストロム、ギルクス

（不　明）

この大会、最大の呼び物はリム・スイ・キン対中国選手、またはハルトノ対中国選手であったのだが、リム・スイ・キンは準決勝でハンセンに敗れ、ハルトノは不参加で夢のカードは見送りとなった。

それにしても、リム・スイ・キンはいったいどうしたというのだろう。

あの〝黒ヒョウ〟のような野性味を失ってしまったのか、体調が思わしくなかったのか、理解に苦しむところだ。

また、中国のメンバーを見渡すと、女子は名実ともに中国を代表するトッププレーヤーに違いないが、男子の陳昌杰は名前も聞いたことのない選手。

孫志安、姚喜明は、もうベテランの域に入るプレーヤーだし、果たして今回のメンバーが第一線級だったかどうかは疑問の残るところ。

まだまだ、一度や二度の国際大会ではぶ厚い〝中国のベール〟ははがれそうにもない。

中国の実力を完全に計れるのは、やはり来年の全英オープン、トマス杯ということになろう。

しかし、IBF加盟後初の国際大会で、ミックスダブルスを除く4種目を制するあたり、底知れぬ脅威を感じないわけにはいかない。

そして、今大会でヨーロッパ勢がこれほど中国勢に対し善戦できたのも驚きだった。

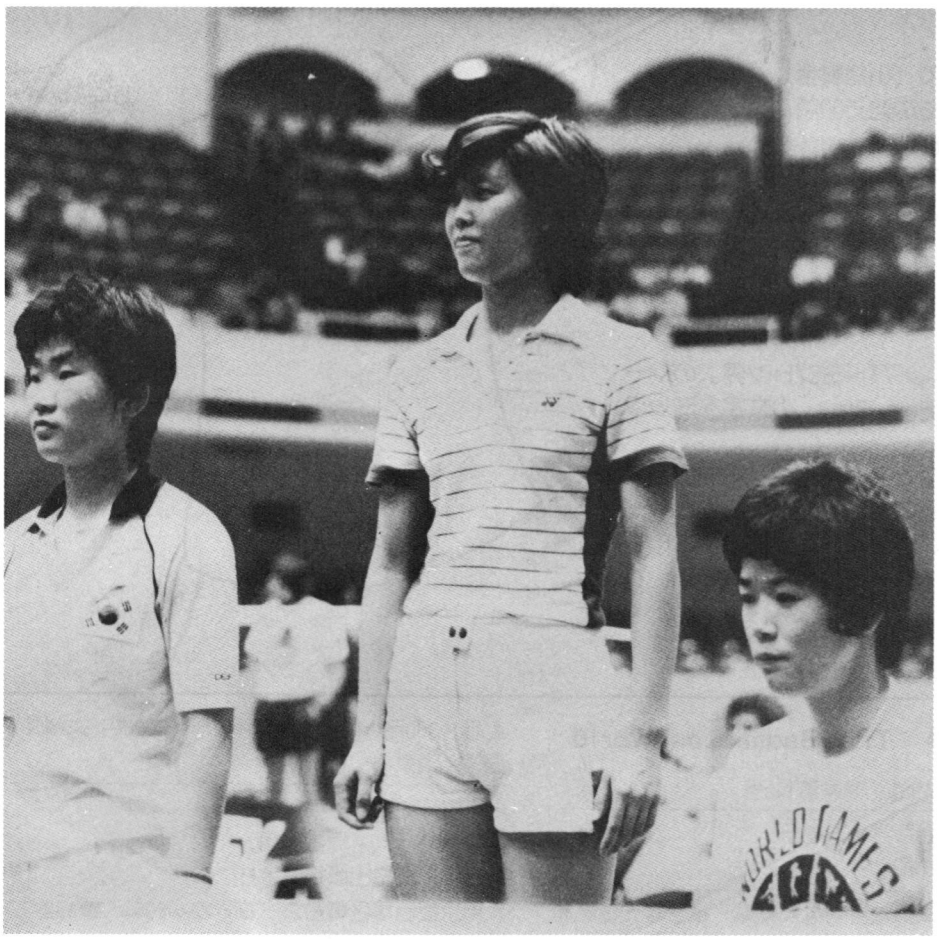
スコアを見れば一目瞭然だが、中国選手も四苦八苦、決して楽な優勝ではなかった。

これを、ヨーロッパのプレーヤーズ制度によるレベルアップ、選手の意識の高揚と考えると、一走立ち遅れたのは日本だけという気がしてならない。

日本男子は、今回も惨敗だった。

国際大会がある度に、とりわけ男子の不安はつのるばかり。

幸い、日本協会の法人化も近い。抜本的な選手強化をますます願わずにはおられなくなった。



女子シングルスを制した張愛玲

'81オリジナルTシャツ 好評発売中!!

★特価　１５００円

サイズ(S・M・L)

〈送　料〉
１枚＝240円
３枚まで350円
４枚以上７枚まで（小包料金）＝第１地帯・(市内)400円、(その他)500円、第２地帯・650円、第３地帯・800円
７枚以上14枚まで＝第１地帯・(市内)460円、(その他)580円、第２地帯・730円、第３地帯・880円

「バドミントン界」のオリジナルTシャツができました。
白地に赤一色で、「バドミントン界」のマークと、Guts & Fair Play の文字をミックスしたものです。
定価は1500円ですが、上記の送料をプラスして、巻末とじ込みの振替用紙に枚数とサイズを明記のうえ、お近くの郵便局からお申し込みください。　バドミントン界編集部



バドミントン界　The Badminton World

1981年８月号　©1981　通巻第142号

写真植字／サカキバラ写植，創研
印刷・製本／根岸印刷

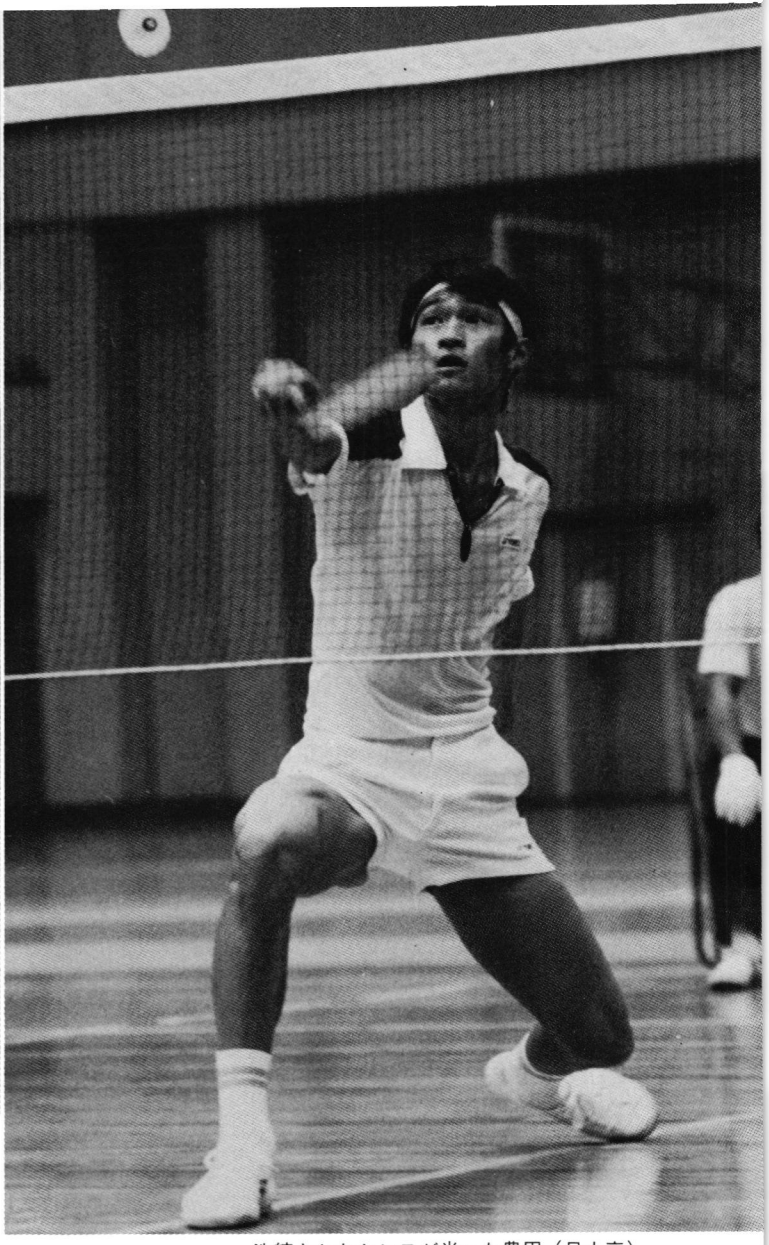
◇本誌の記事・写真等を許可なく転載・複写することを禁じます

定価＝300円　１年間予約購読料＝3000円(送料共)
振替＝東京８－10737

昭和56年８月15日発行
編集兼発行人／赤星三樹
発行所／赤星出版株式会社
東京都目黒区鷹番２－８－22－205　〒152
☎03－712－6952



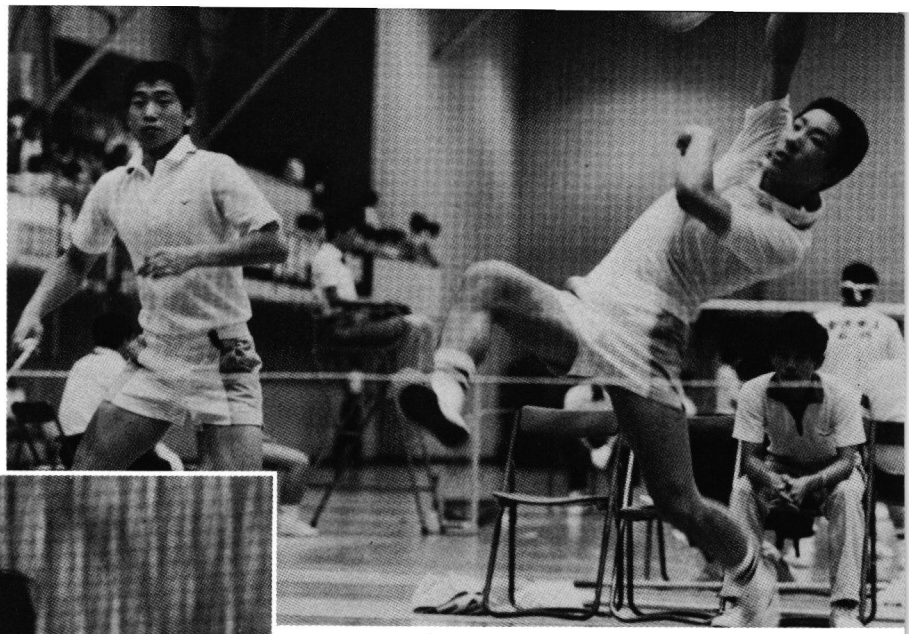
スマッシュに威力のあった原田（秋田二ッ井）



洗練されたセンスが光った豊田（日大高）

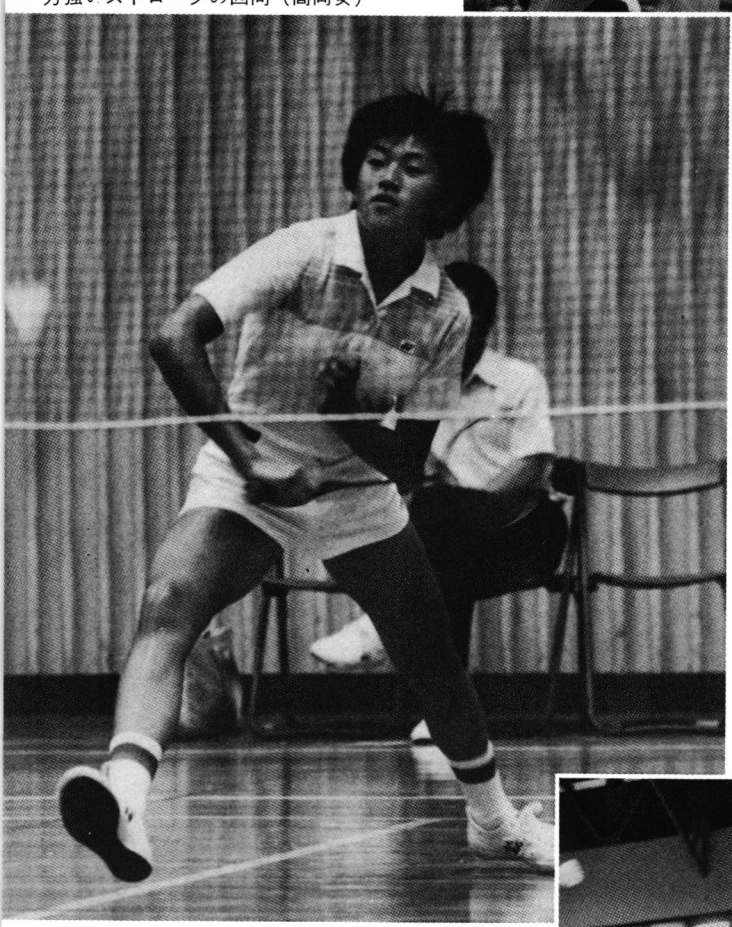
あと一本に泣いた三沢・鈴木組（小山城南）





見事はコンビで３位に入賞した佐々木・葛西組（東奥義塾）

力強いストロークの回向（高岡女）

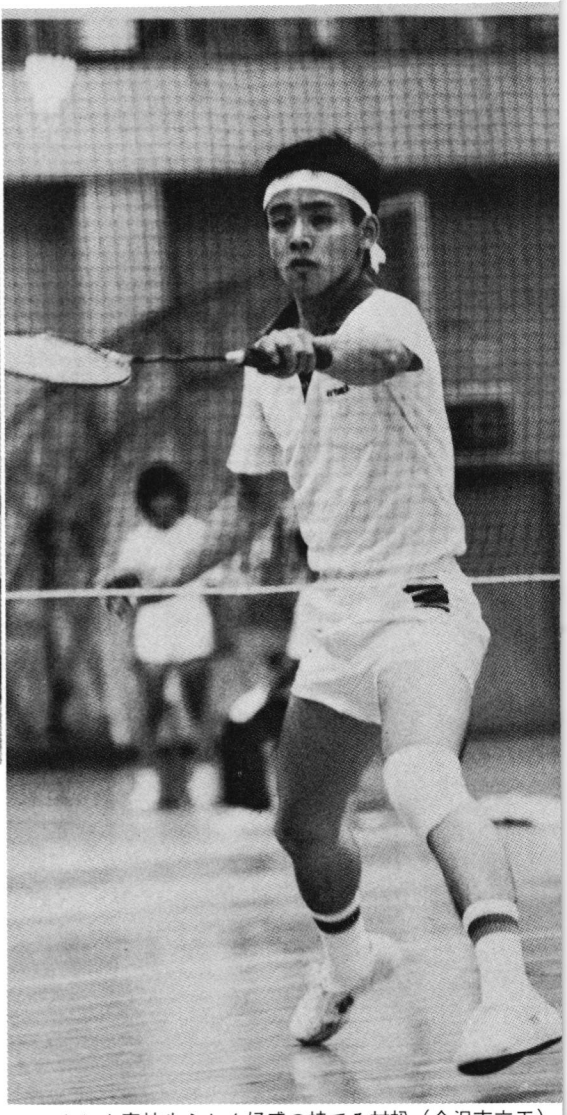


スピーディな動きが印象的、伊東・福田組）九州学院）





淡々とした試合運びだった山内佳・佃組（高松中央）

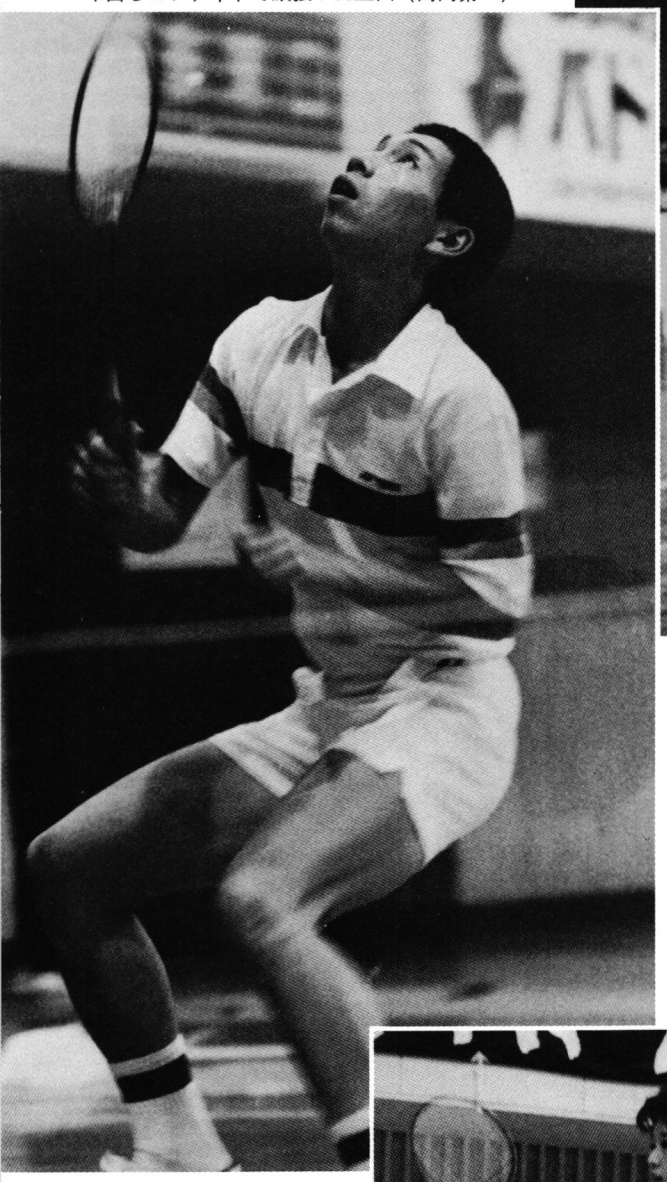


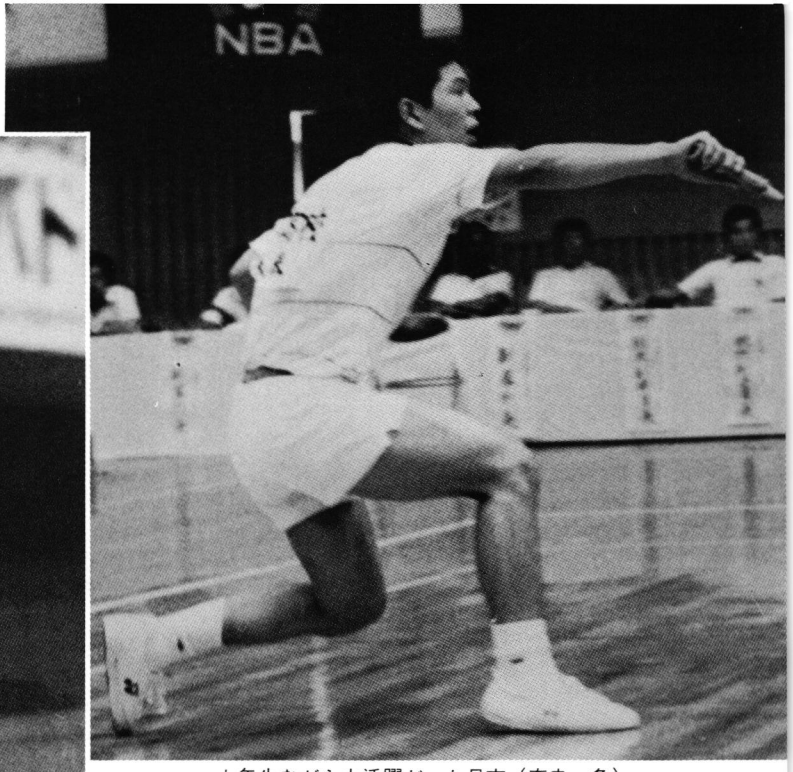
いかにも高校生らしく好感の持てる村松（金沢市立工）

地力を出して森山・三由組（熊本信愛）は第３位入賞



ムキ出しのファイトで頑張った上田（高岡第一）

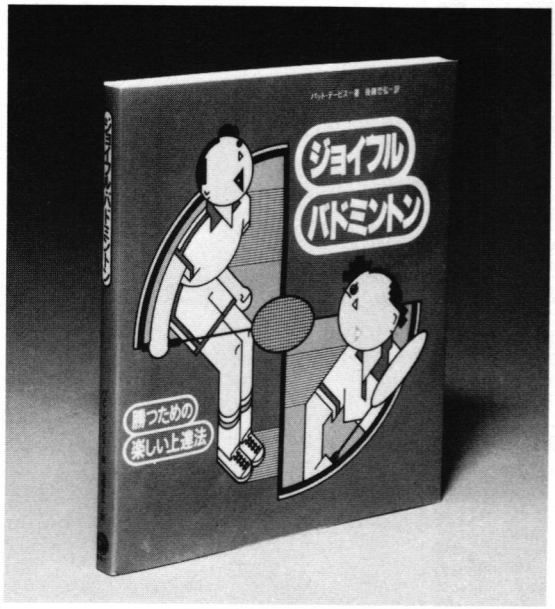




1年生ながら大活躍だった見市（奈良一条）

四条畷の底力を見せた久世・押切組





ジョイフル・バドミントン

勝つための楽しい上達法

全国学校図書館協議会選定図書★好評発売中

B5変形判・168頁

定価1600円・送料300円

発行／赤星出版株式会社

《ジョイフル・バドミントン》はこんな本です

●勝利をめざす プレーヤーに

《ジョイフル・バドミントン》は、初心者はもちろん、経験豊かなプレーヤーにも役立つようにまとめたものです。バドミントンは、うまくなればこそ、楽しみも深くなります。

「勝敗なんかどうでもいい、楽しくやれば」という人よりも、「勝敗を争う以上は、勝ちたい、もっと強くなりたい」という人に、ぜひ読んでいただきたい本です。

●伝統の理論をわかりやすく

《ジョイフル・バドミントン》は、イギリスのナショナル・コーチ、パット・デービス氏が書いたものです。翻訳は、バドミントン関係の翻訳なら第一人者の後藤忠弘氏が担当しました。いうまでもなく、イギリスはバドミントンの故郷ですし、男女ともに世界のトップレベルにあります。1899年から全英選手権を開いているだけに、その理論、解説には〝さすが！〟と思わせるものがいっぱいです。そして後藤氏の名訳により、〝翻訳調〟の読みにくさ、わかりにくさは、まったくありません。

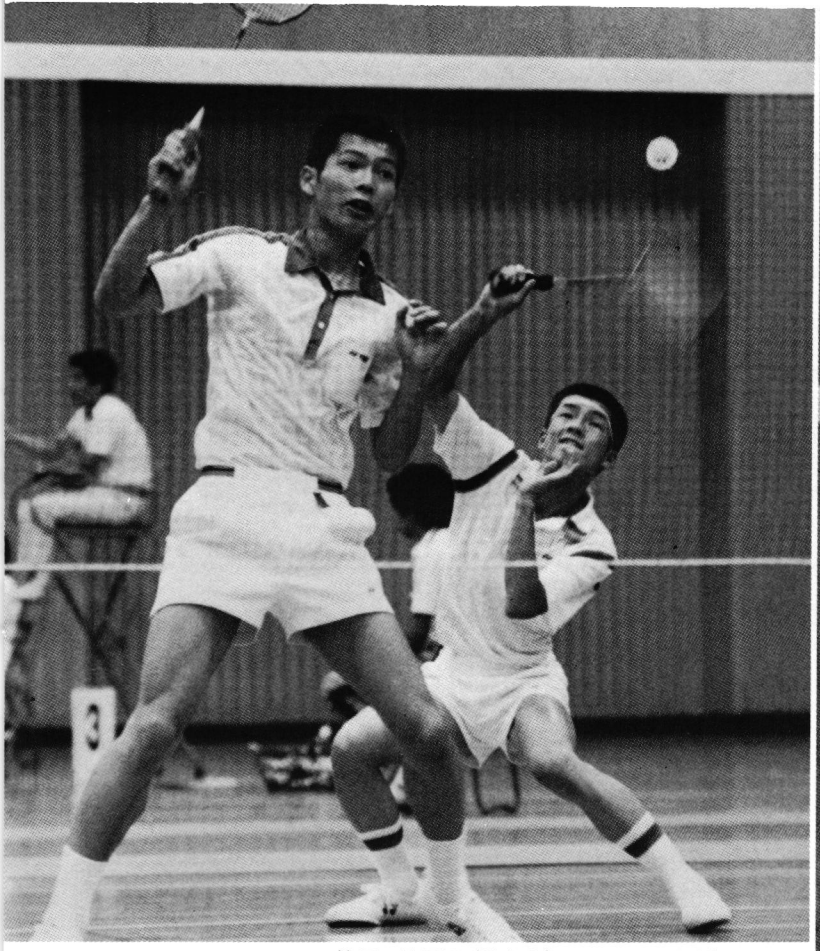
●最新の写真がいっぱい

《ジョイフル・バドミントン》は、イギリスのトップカメラマン、ルイス・ロス氏の迫力ある写真に加えて、「バドミントン界」が撮影した多くの写真が収録されています。81年1月のジャパン・オープン'81のものまで含まれています。じつに230点余り。写真を見ているだけでも、時間のたつのを忘れてしまいます。

●連続写真も8シーン

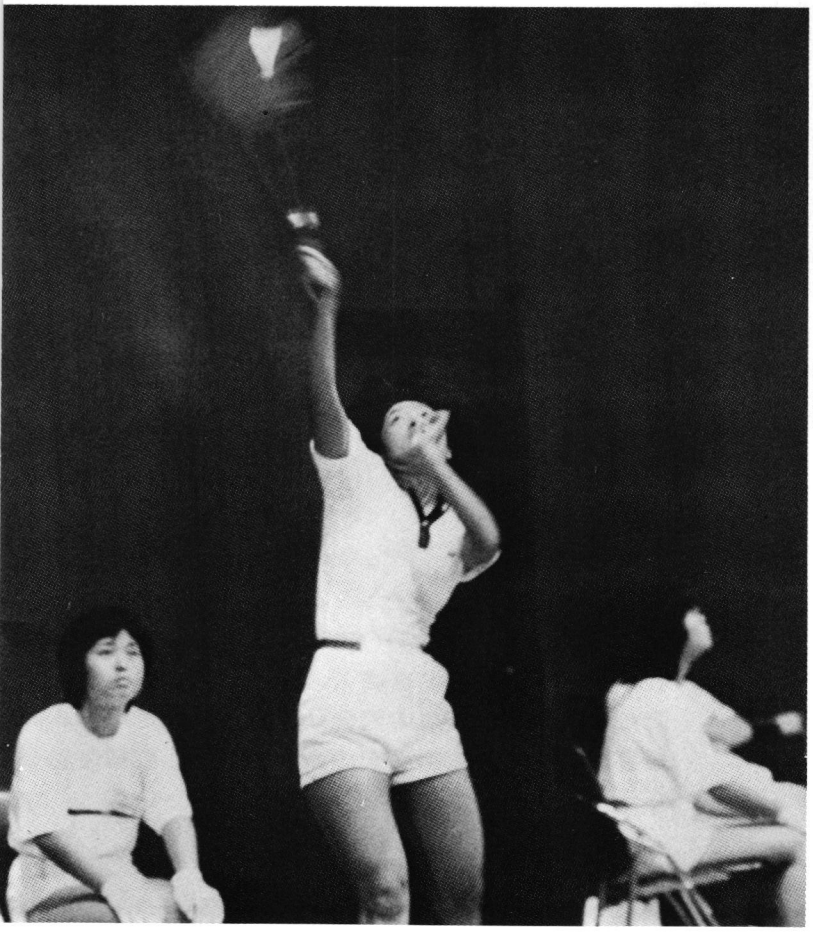
《ジョイフル・バドミントン》には、ジャパン・オープン'81のさいに撮影した連続写真も収録されているので、文章と写真とで立体的に技術をマスターできます。収められているものは、①スマッシュ（ルディ・ハルトノ）②ドロップショット（ルディ・ハルトノ）③ショート・サーブ（クリスチャン）④ドライブ・サーブ（クリスチャン）⑤ハイ・サーブ（ルディ・ハルトノ）⑥バックハンド・サーブ（チュンチュン）⑦羽根打ちサーブ（リュース・ポンゴ）⑧ヘアピン・ショット（ルディ・ハルトノ）の8シーンです。

◘本書は、全国有名書店のスポーツ書コーナーで発売中ですが、品切れの場合は、本誌巻末とじ込みの振替用紙に必要事項明記のうえ、お近くの郵便局から代金・送料を添えてお申し込みください。



辻田・片岡組（比叡山）もベスト4進出）

小柄な体をフル回転させた新木（四条畷）





強敵を倒しての3位入賞は立派、永井（高松中央）

出版案内

バドミントン界編集部

お申込みは巻末とじ込みの振替用紙で、お近くの郵便局からどうぞ

ガッツ・バドミントン

オールジャパン男子シングルスでＶ８をなしとげた日本最強の〝ガッツ〟小島が、そのすべてをさらけ出した書。日本図書館協会選定図書――!!



限りなき挑戦

小島一平著

勝利へのガイドブック!!

好評発売中!!

菊倍判（225ミリ×295ミリ）

定価2000円（送料350円）

〈本書の内容〉

第Ⅰ部　体当たり半生記

１バドミントンとの出会い／２トップ・プレーヤーと接する／３オールジャパンを制す／４限りなき挑戦

第Ⅱ部　実戦アドバイス

１方法よりも意欲だ／２体力づくりに近道はない／３より速く、より高く、より前で

第Ⅲ部　わがライバルたち

１日本最高のシングルス・プレーヤー（秋山真男）／２団体戦に燃えた男（本間順次）／３夢ではない〝世界一〟（銭谷欽治）／４もの静かな全英チャンピオン（タン・アイク・ハン）／５デンマークの暴れん坊（スヴェン・プリ）／６史上最強の天才プレーヤー（ルディ・ハルトノ）

第Ⅳ部　主要大会記録・ルール

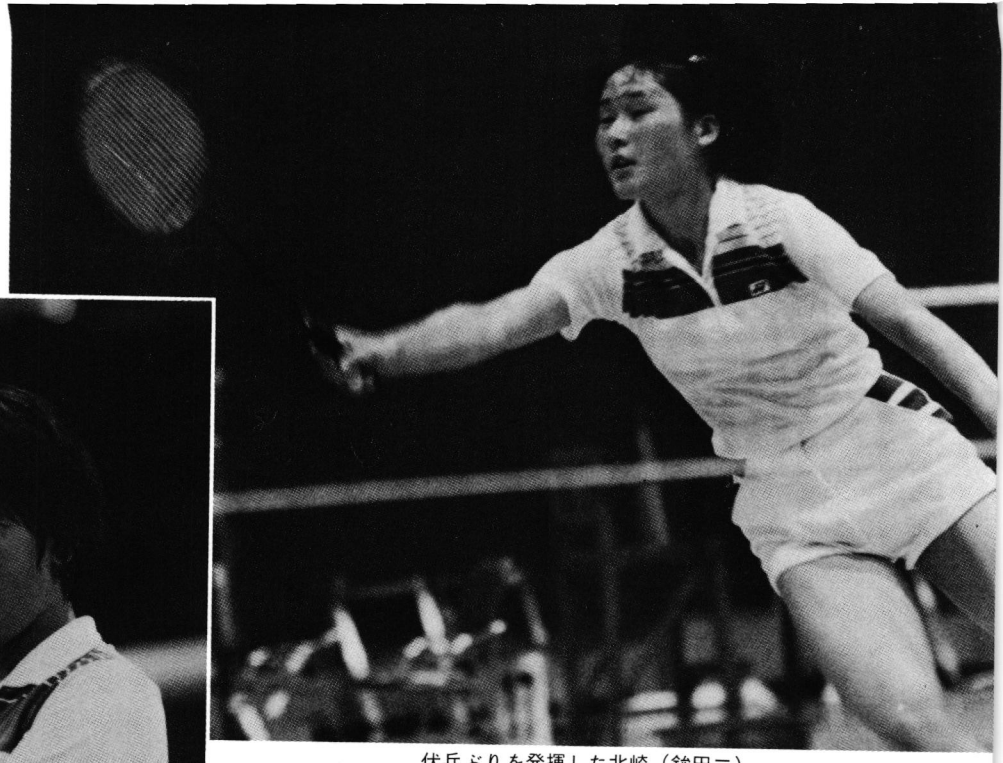
トマス杯大会／ユーバー杯大会／全英選手権大会／デンマーク・オープン大会／世界選手権大会／全日本総合選手権大会／競技規則／審判用語

★連続写真：小島一平、銭谷欽治、中井基夫、長谷川博幸、西山博司による11フォームを収録!!

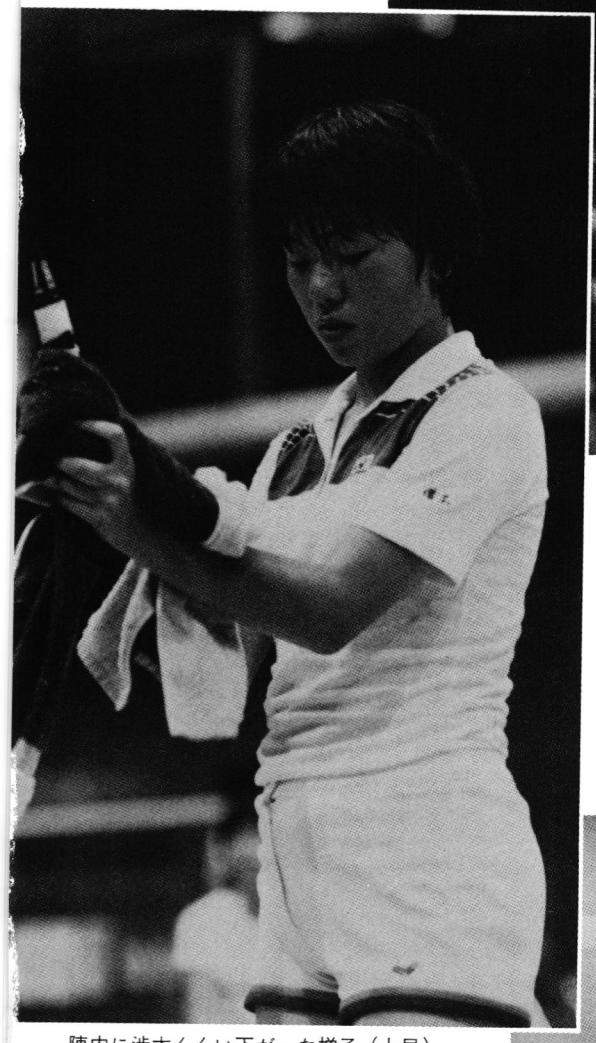
★著者紹介★

小島一平（コジマ　イッペイ）は、神奈川県立緑ケ丘高校、中央大学卒。高校時代はインターハイ・シングルス2位だったが、大学に入ってからメキメキ実力をつけ、昭和41年から昭和50年の間に、オールジャパン・シングルス優勝８回、同ダブルス優勝４回という、わが国最高の記録を残している。全英選手権でも単複３位のほか、デンマーク・オープンでは単複に優勝している。

ヨネックススポーツを経て、現在はラケットショップ元町常務取締役。



伏兵ぶりを発揮した北崎（鉾田二）



陣内に渋太くくい下がった増子（上尾）

よし決勝進出だ、奈良・杉山組（日大高）





DÉFI

イタリアからColor Liberation最新版の到着。

新鮮デフィ、新発売。

正統コットンホワイトのぼく。ところが、きょうのパートナーは、イタリアから新着のデフィのポロ。伝統の優れた機能性に、ファッショナブルなイタリアンフィーリングをコーディネイトしたNewデフィとは！ 鮮やかなイタリアンカラーが、ときにローマの華麗となって、ときにフィレンツェの繊細となって、コートを舞った。きみは、コートのウィナーになる前に、恋のウィナーになってしまうぞ。

kawasaki
カワサキラケット株式会社

月刊「バドミントン界」8月号昭和36年8月15日発行　昭和35年10月9日第三種郵便物認可　編集兼発行人／赤星三封・発行所／東京都目黒区鷹番2―8―22―205・赤星出版株式会社　電話03―712―6952　〒152　定価／300円

リム・スイ・キング
Liem Swie King
●'78・'79・'81全英バドミントン選手権優勝

「惚れこんだ。」

新発売

Carbonex10

カーボンとアルミ合金の複合フレーム〈CAB-10〉



リム・スイ・キングの片腕。ヨネックス。

またまたコートに、凄いヤツの登場です。ラケットも、ついにここまで来たのか！という声につつまれて、全身カーボンのカーボネックス10。シャフトはもちろんカーボン。そしてフレームまでカーボンとアルミ合金の複合体。しぶといストロークと、正確なコントロールを生みだします。スマッシュはあくまで鋭く重く、全てにおいてグレードアップしています。いってみれば、カーボンのなかのカーボン。他を寄せつけない存在です。ますます面白くなってきたぞバドミントン。

YONEX®